

新潟市地域コミュニティ育成事業

小合地域コミュニティ協議会  
中学生以上全住民アンケート  
分析レポート

2020年2月15日  
NPO法人まちづくり学校

# 小合地区の人口推移と今後の予測

秋葉区地域カルテ（H30）などより

小合地区	2011年	2016年	2021年	2026年	2031年	2036年	2016→2036 増減
人口総数	4,080	3,887	3,656	3,398	3,123	2,830	-1,057
0～14歳	441 10.8%	396 10.2%	370 10.1%	322 9.5%	268 8.6%	224 7.9%	-172
15～64歳	2,416 59.2%	2,114 54.4%	1,845 50.5%	1,682 49.5%	1,536 49.2%	1,373 48.5%	-741
65歳以上 (高齢化率)	1,223 30.0%	1,377 35.4%	1,440 39.4%	1,394 41.0%	1,320 42.3%	1,233 43.6%	-144
〈うち75歳以上〉	728	766	737	844	880	812	46
75歳以上の1人を支える15～64歳の人数	4.0人	3.6人	3.5人	2.6人	2.2人	2.2人	
世帯数	1,180	1,249					
1世帯あたり人数	3.46	3.11					
【参考】新潟市全体の高齢化率	2010年 23.2%	2015年 27.2%	2020年 30.0%	2025年 31.5%	2030年 32.9%	2035年 34.6%	※国のデータのため年度が1年ずれています。

25年間で子どもの数は半減

20年後、働く世代の人口は3分の2になる

75歳以上(支えられる世代)が今後増加

← 住民基本台帳による実績値      推計値 →

2016年の高齢化率は新潟市内中学校区で3位。  
いまの小合地区は20年後の新潟市の状況を表している？

# 中学生以上全住民アンケートの実施

小合地域に住む中学生以上の  
全住民を対象としたアンケート。  
令和元年10月に  
各自治会を通じて配布・回収。

**配布数：2,913通**

**回収数：2,624通**

(中学生は学校で実施)

**回収率：90.08%**

**かなりの高回収率！**

## 小合地区まちづくりアンケートのお願い

～みなさまの声をお聞かせください～



小合地区にお住まいのみなさまへ

小合地域コミュニティ協議会  
会長 阿部 繁

日頃より、地域活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。  
コミュニティ協議会や自治会・町内会が行う活動は、小合地区に住む方々が安心して楽しく暮らし続けるために行っています。人口減少や担い手不足、地域課題が多様化する中で、小合地域コミュニティ協議会ではこれまでの活動を見直し、より効果的にかつ楽しく、そして負担の少ない方法へと活動を“進化、させることにしました。

そこで、次の時代を担う若者たちも含め、みなさまが暮らしの中でどのようなことを感じ、何を重要と考えているかをお聞きする「全住民アンケート調査（中学生以上）」を行うことにしました。

このアンケート調査の結果は、世代別や男女別などさまざまな角度で集計・分析した後、「報告会」を通して住民のみなさまへ報告いたします。併せて、来年度のコミュニティ協議会の活動計画に反映します。住民のみなさまの目線に立った地域活動と運営に役立てていきますので、アンケートへのご協力よろしくお願いたします。

### ● アンケートの記入と回収方法 ●

本アンケート調査票は、お一人一通です。次ページ以降のアンケート調査票にご記入のうえ、必ず添付の封筒に入れて封をし、ご家族の分をまとめておいてください（封筒には何も書かないでください）。自治会・町内会ごとに役員や班長が配付後1週間程度を目安に回収にうかがいます。

なお、中学生は学校で配布・回収しますので、家庭に配布したもののへの回答は不要です。

みなさまからいただいた貴重な回答は、すべて匿名（無記名式）のデータとして集計され、統計的に処理します。集計過程や結果において、個人が特定されることは一切ありません。分析結果は小合地区の今後のまちづくり活動に活かす基礎データとしてのみ使用します。

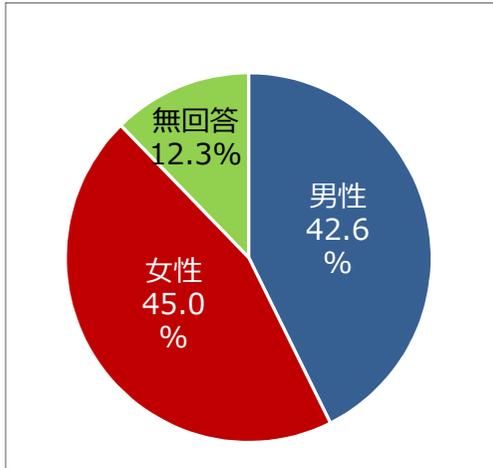
人口データから  
予測する  
「小合地区の将来の姿」  
について  
裏面で解説しています。

※この取り組みは「新潟市地域コミュニティ育成事業」により実施しており、小合地区は令和元年度のモデル地区です。

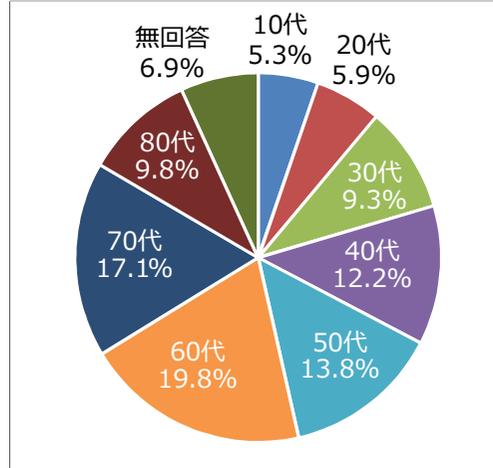
★このアンケート調査へのお問い合わせは下記までお願いします。  
小合地域コミュニティ協議会（小合地区コミュニティセンター内）  
TEL・FAX：0250-25-2299／火曜～日曜9:00-17:00

# 回答者属性 (Q1・Q2)

Q1-1 性別



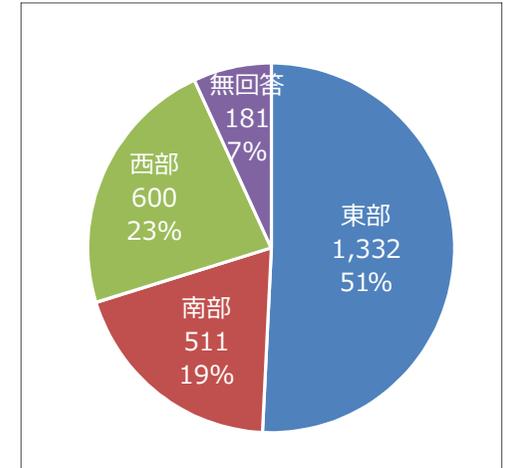
Q1-2 年代



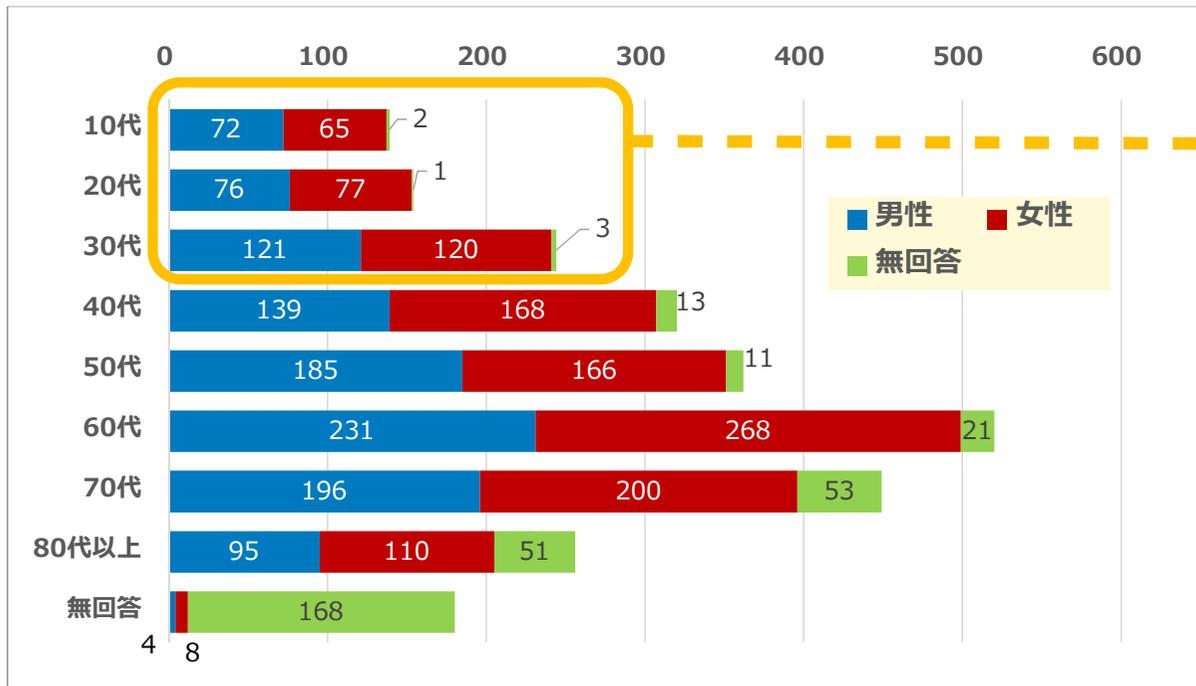
10～40代は回答者の約3分の1。50代以上が3分の2を占める。

10代から30代までの回答者数合計(537人)は60代の回答者数(520人)がほぼ同じ。

Q1-3 居住地



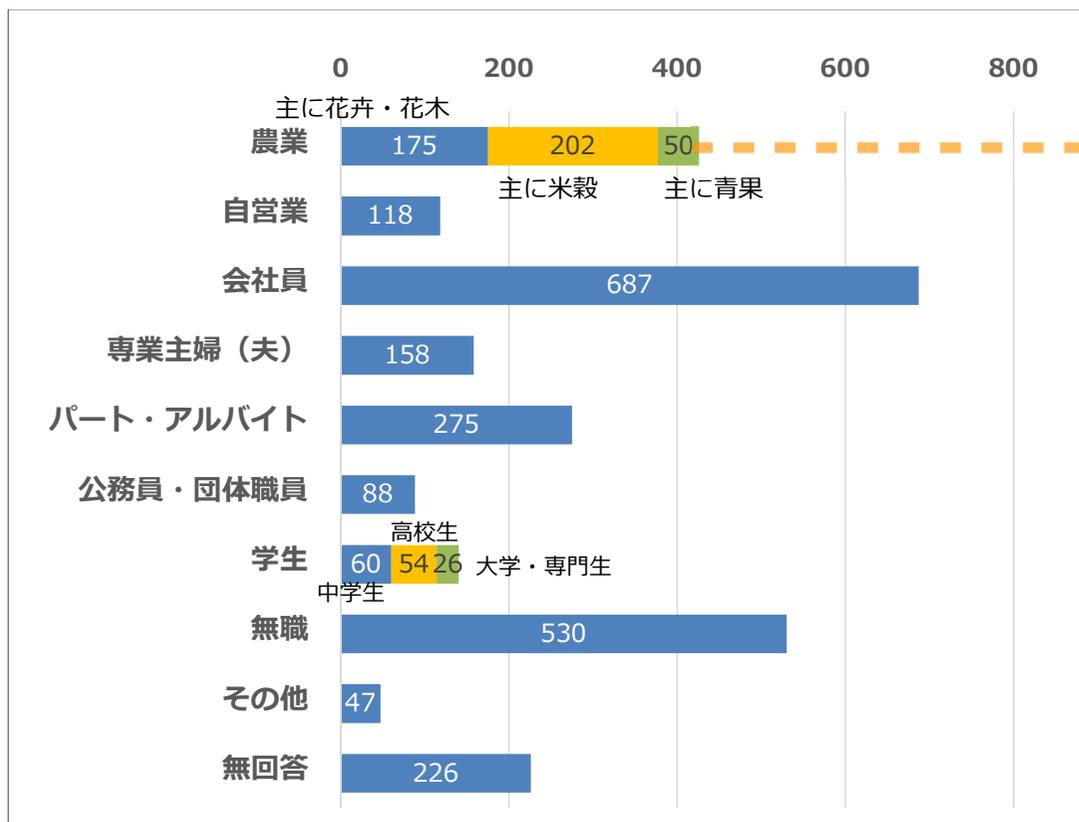
年代別×男女別



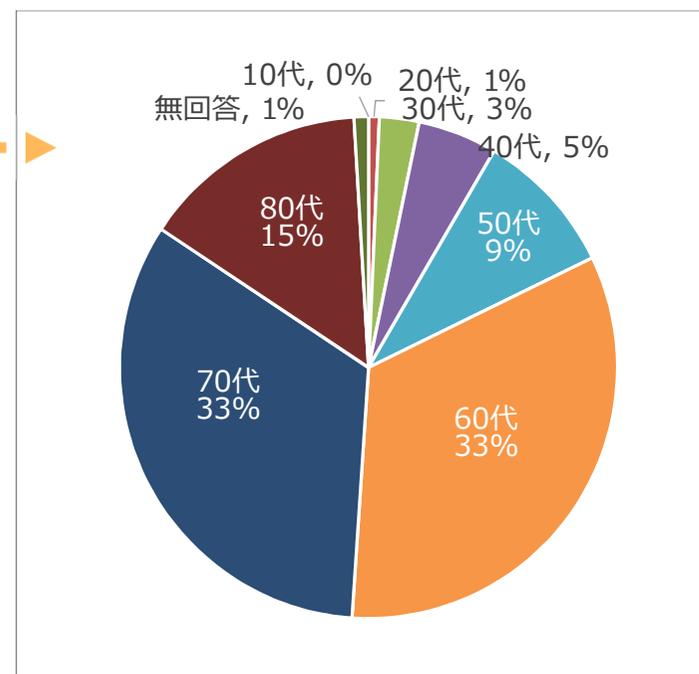
若者・中堅世代は少数派。

世代別で意見を捉えていかないと全体の中で埋没してしまう。  
(意識して声を聞く必要あり)

Q2 職業



農業従事者の年代構成 (割合)



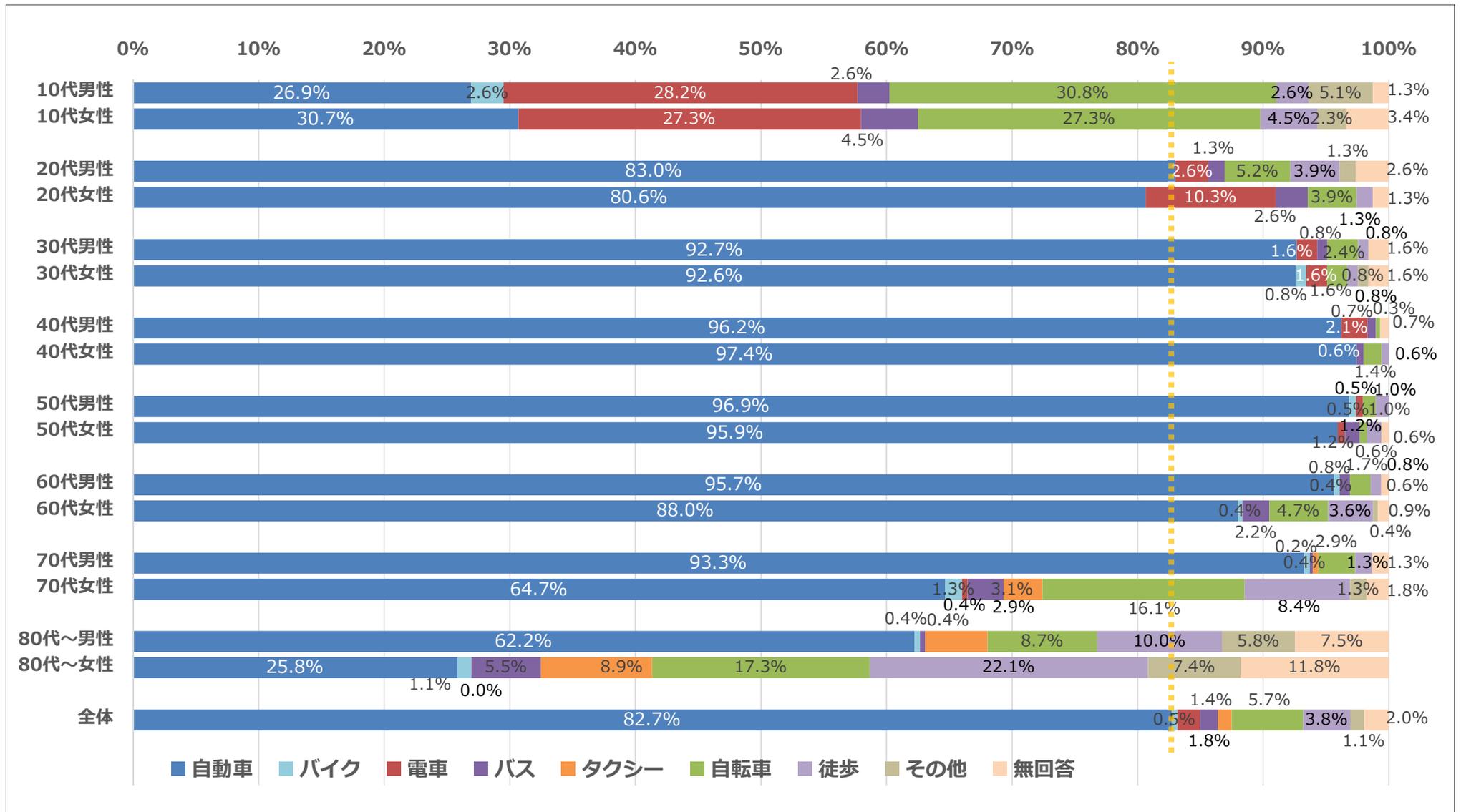
- ・ 職業は「会社員」がトップ。  
高齢者の回答が多いためか「無職」（年金生活含む）が続く。次いで「農業」（累積数値／兼業も含む）。
- ・ 「その他」では専門職を記載した人が多い。

(人数)	年代	人数
	10代	0
	20代	3
	30代	11
	40代	22
	50代	40
	60代	142
	70代	142
	80代	63
	無回答	4

小合地区には農業従事者が多いが80%が60代以上。  
20年後の農業・農地はどうなる？

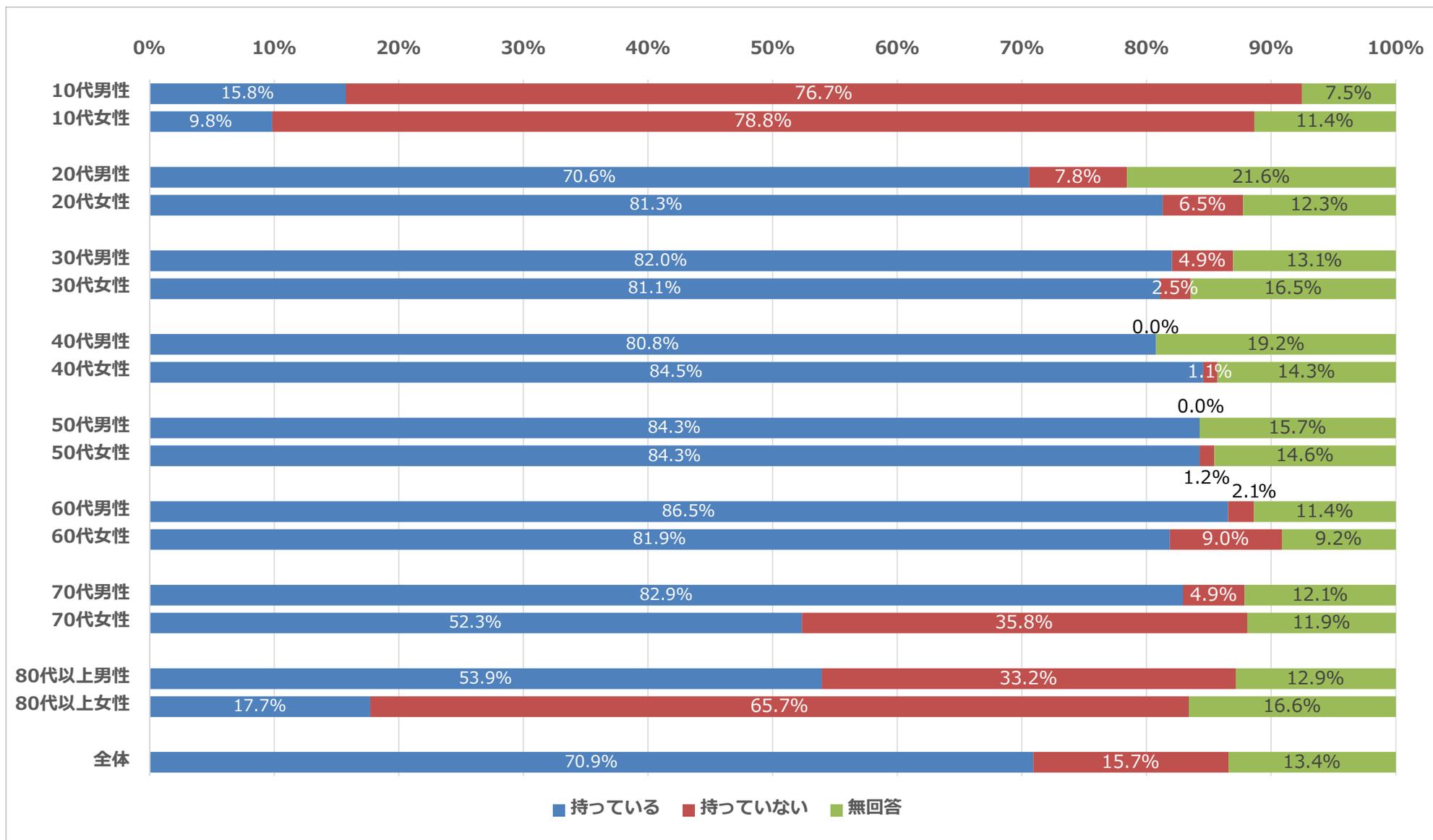
# Q3 日常的な交通手段 (中学生の回答はなし)

## Q3-1 日常的な交通手段



- ・ 30代男女～70代男性まで9割以上が自家用車利用。公共交通機関が少ない小合地区の状況を反映していると考えられる。しかし、女性は70代から自家用車利用が減り80代以上は4分の1。

Q3-2 運転免許所有状況



・ Q3-1 (交通手段) の結果と相関する。70代女性～80代以上は免許所有率が下がる。

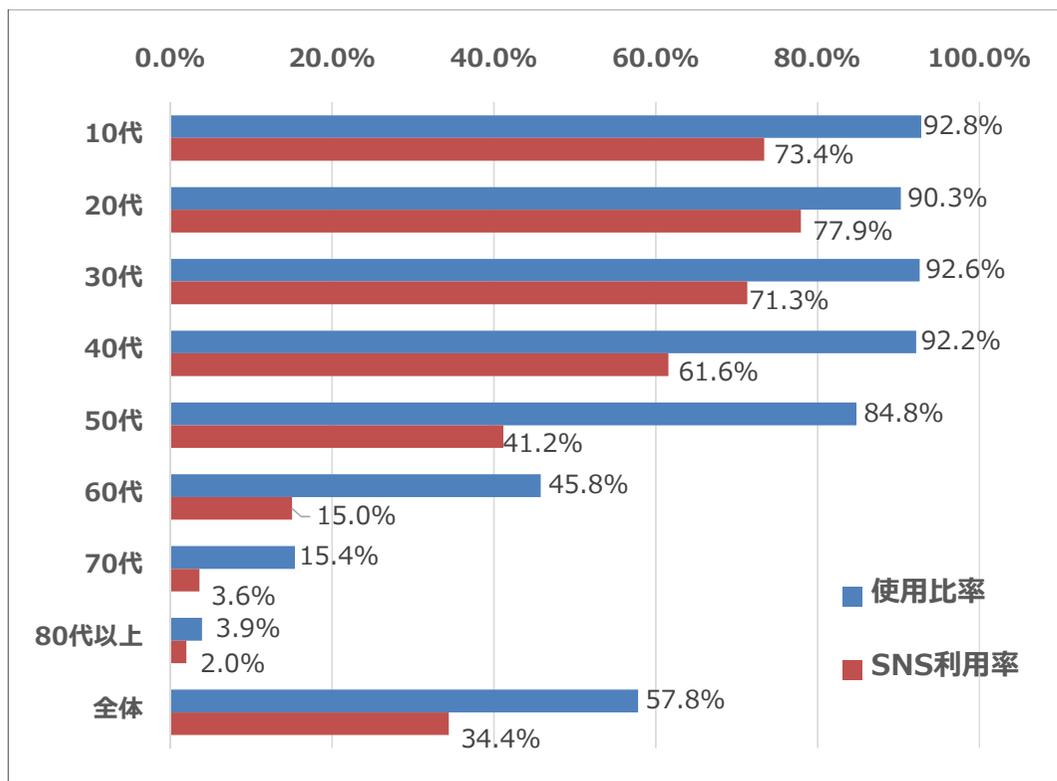
- ・ 運転可能な年齢層のほとんど（30代～70代男性）が9割以上自家用車利用。公共交通機関が少ない小合地区の状況を反映していると考えられる。
- ・ 20代は学生を含むため9割を切っているが自家用車利用の比率は高い。免許を持たない人は、徒歩や自転車、電車、バスの複数利用と考えられる。
- ・ 10代は「徒歩」「自転車」と捉えるのがよい。
- ・ 女性は70代から自家用車利用が減り、80代になると自転車や徒歩が増加。
- ・ 高齢でも自家用車利用は高いが、家族などの送迎・同乗も考えられる。



- 高齢化が進む中で、今後の移動手段は？ 10年後は？
- 高齢者だけでなく免許を持たない若い世代にも交通の問題は共通する。
- 送迎する人（若い世代）の負担は？
- Q6日常生活の不安・困りごとで「運転が不安」「移動手段」の選択が高めという結果と相関する。

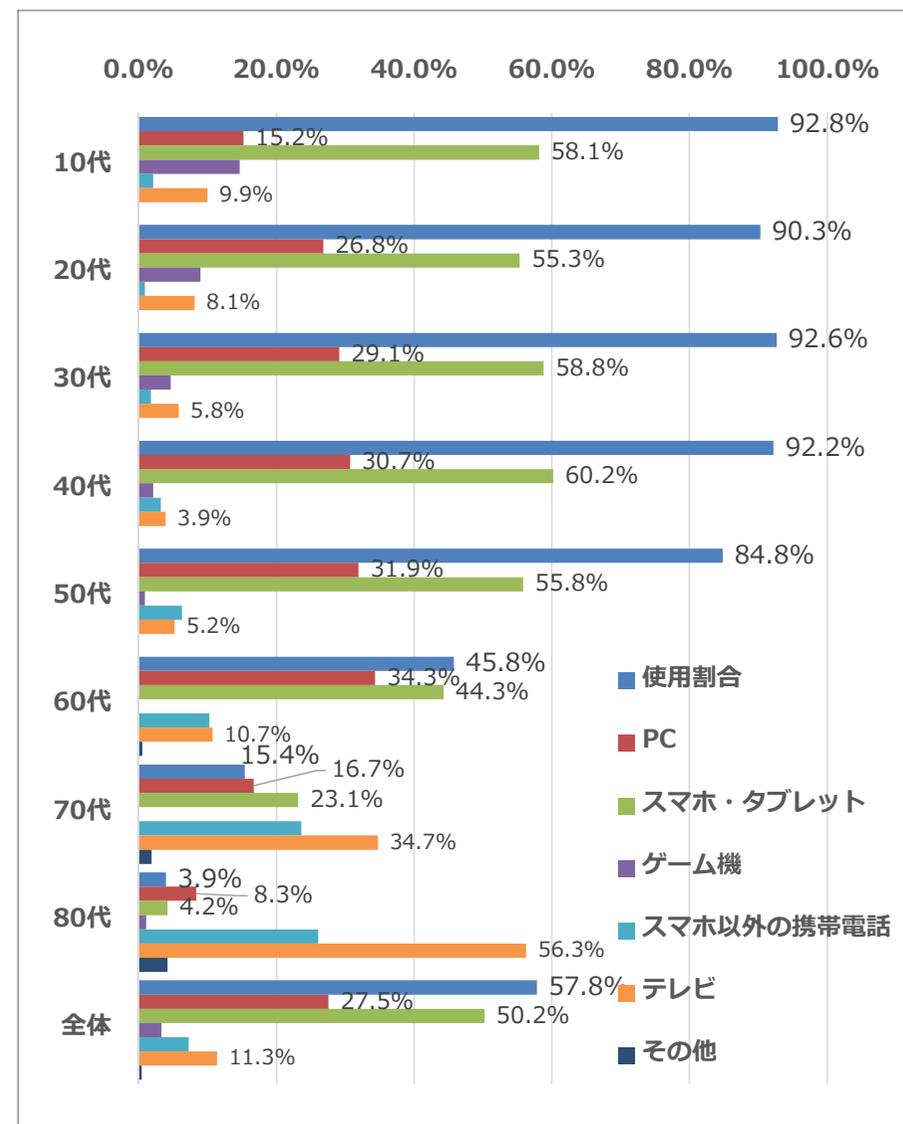
# Q4 インターネット利用状況 (情報の伝達と取得)

## 年代別インターネットの利用率とSNS利用率



- 全体の半数以上がインターネットを利用しており、40代以下は9割以上が利用（50代でも8割を超える）。
- 50代以下と60代以上で明らかに差があり、70代以上は激減。
- 10～30代は3人に2人以上がSNSを利用。60代以上はほとんど利用していない。

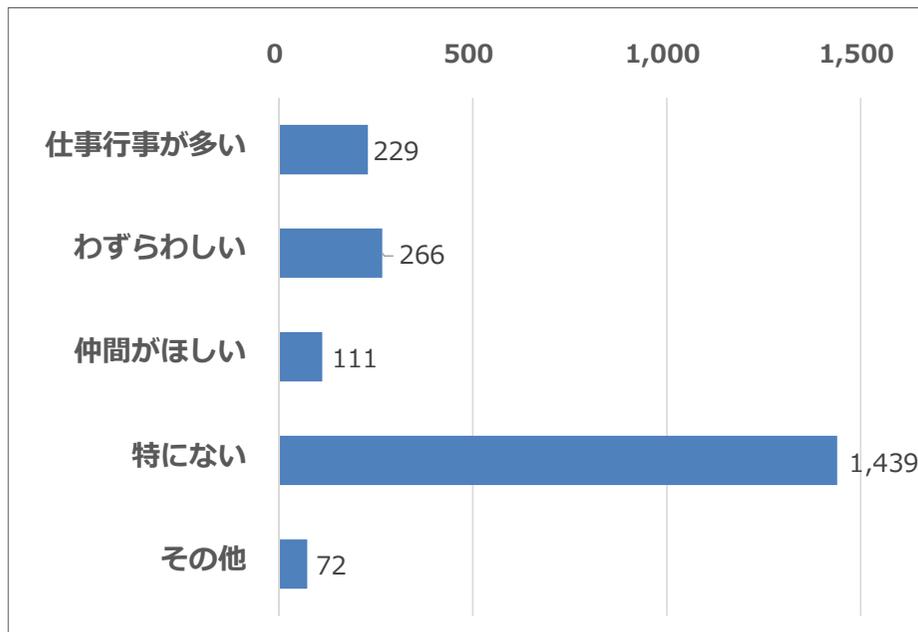
## 年代別インターネット利用における使用機器



大半がスマホやパソコンを利用しているが、70代以上になるとスマホ以外の携帯電話やテレビからの情報取得が増加。

地域の情報や連絡は、紙媒体のほかにインターネット経由にすることで、関心や参加を生む可能性が高まるのでは？

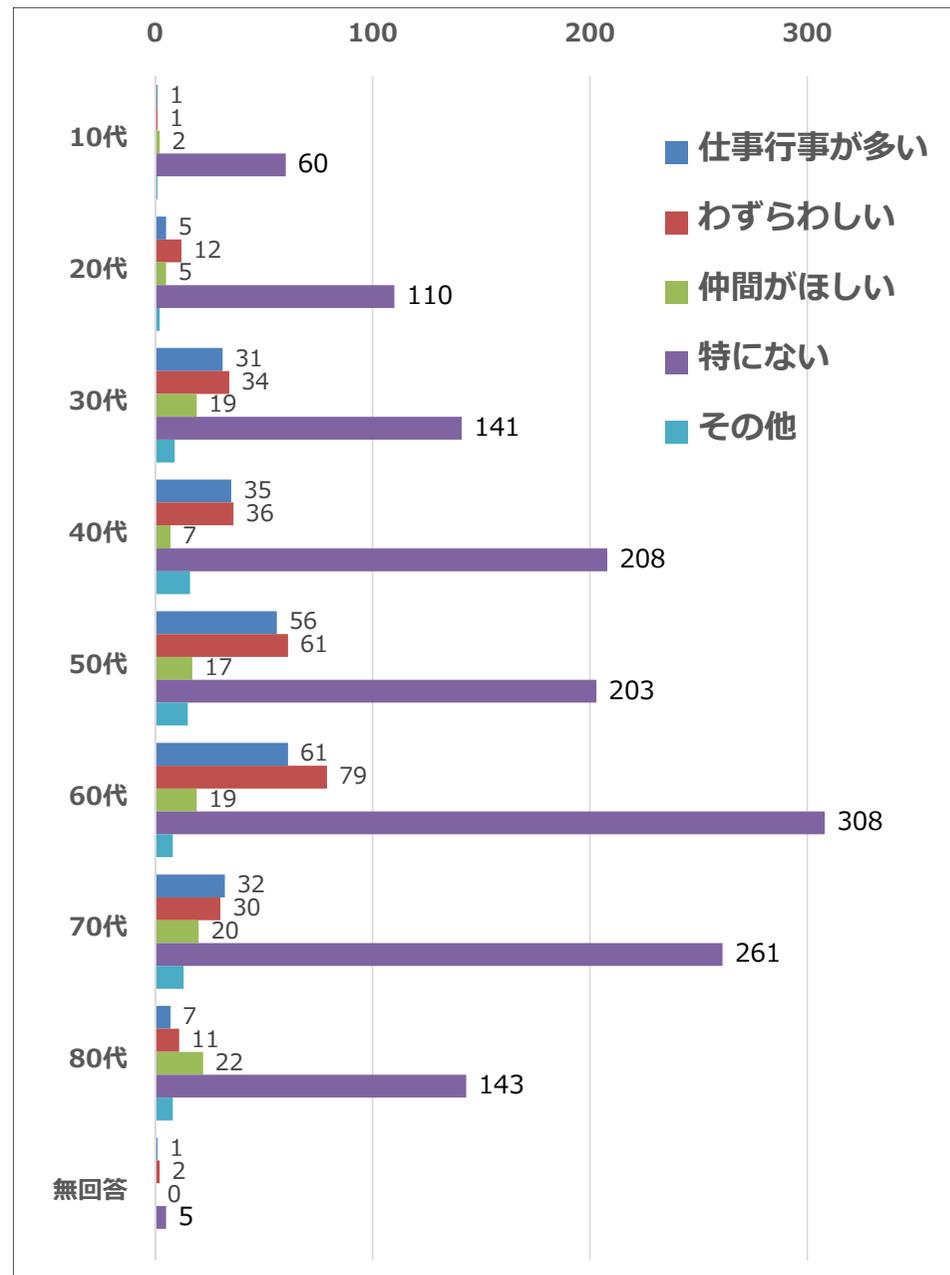
# Q5 近所づきあいの悩み・要望 (複数回答/中学生の回答はなし)



- ・ 特にないが多数。
- ・ 50代と60代でわずらわしさや仕事の多さを感じる人が多い。

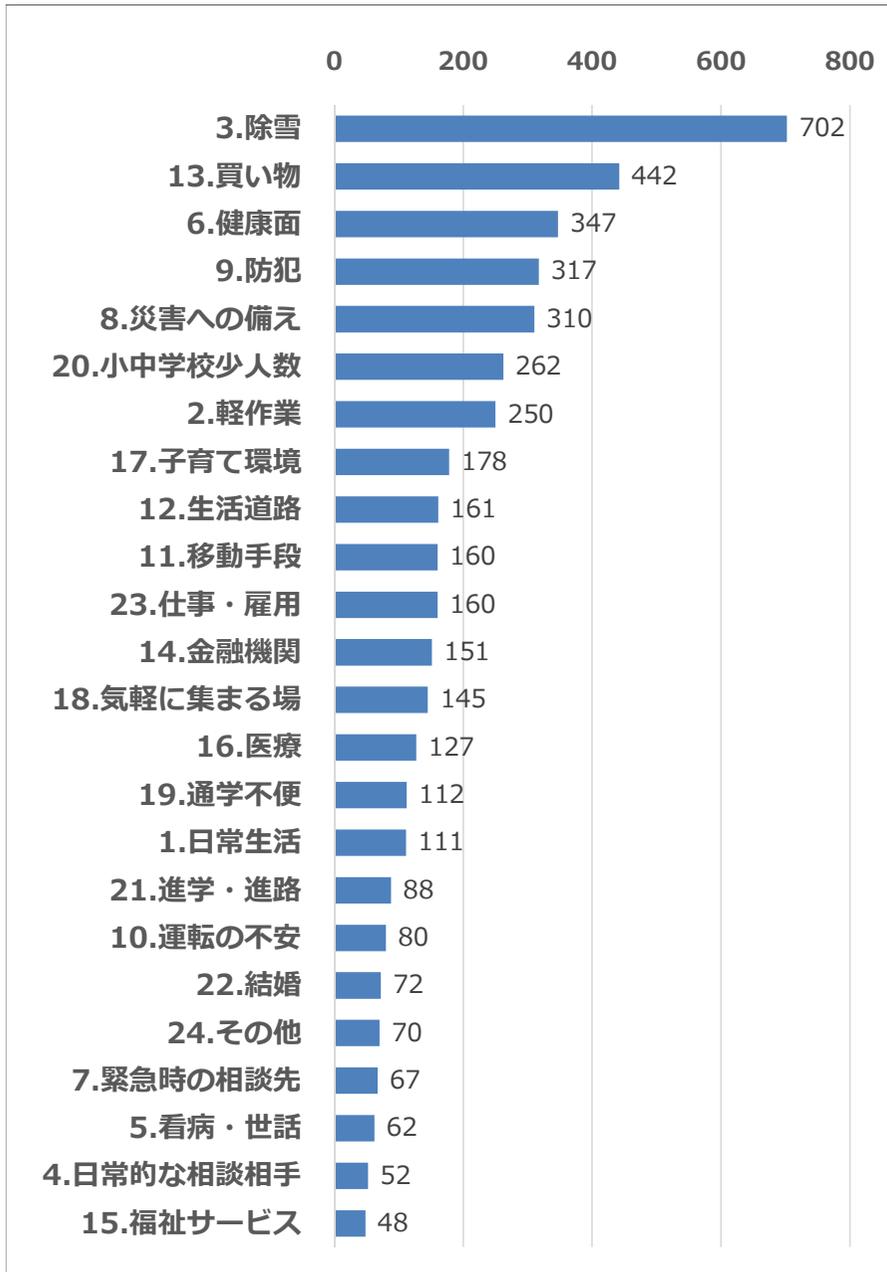


悩みが本当にないのか、つきあいがなかったり適度な距離なのか？



## Q6 日常生活での不安・困りごと（複数回答）

全体の回答数でのランキング（回答総数4474）



「除雪」が最も多く、「買い物」「健康面」「防犯」「災害への備え」と続く。



全体集計では  
「除雪」「買い物」が上位だが、  
3位以下は  
世代別で違いが出てくる。

## 世代別 ランキング

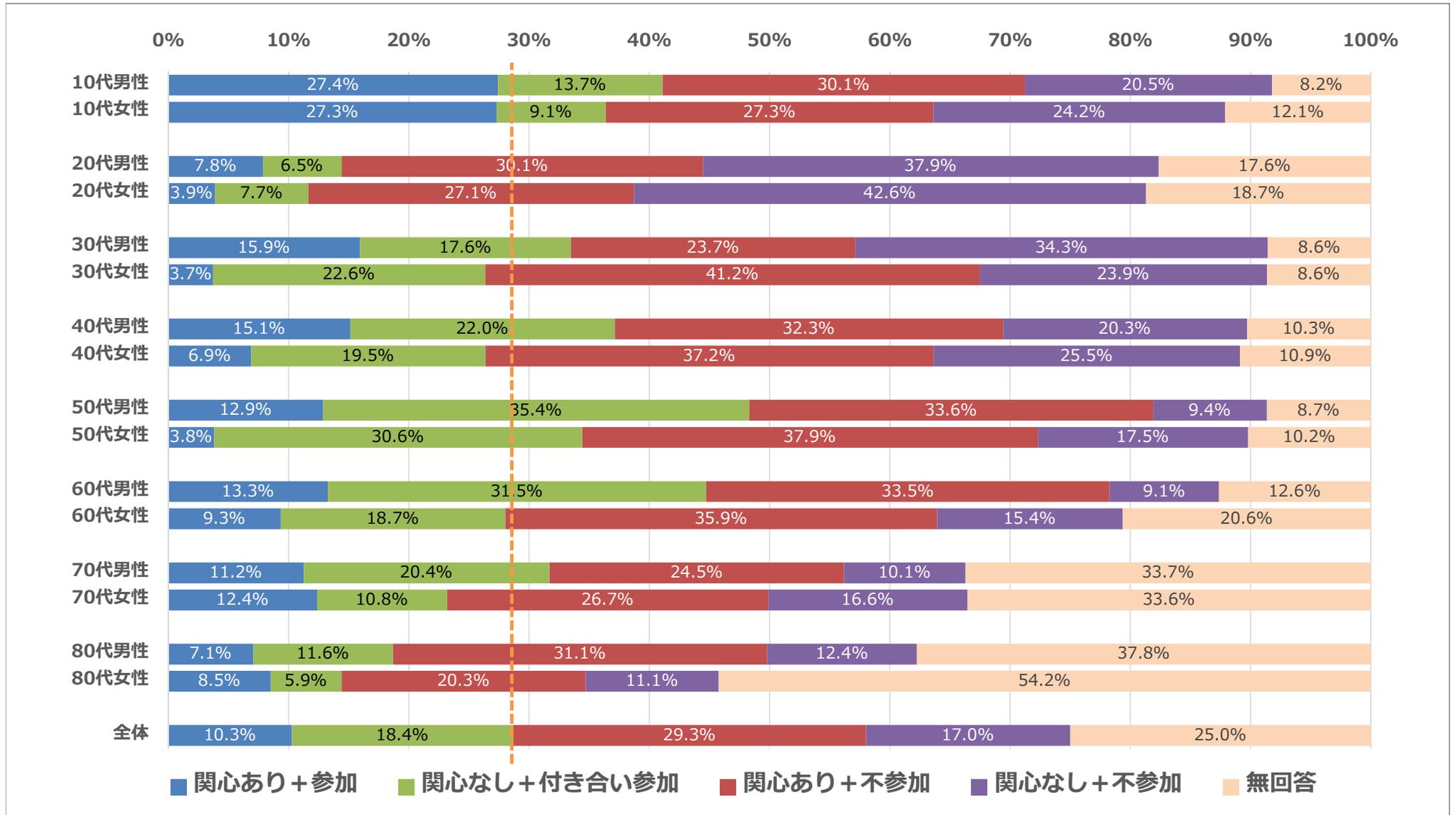
	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
1.日常生活	4.2%	3.6%	3.2%	4.9%	2.5%	5.2%	4.2%	5.1%	5.5%	1.7%
2.軽作業	9.5%	0.7%	4.5%	8.6%	7.8%	13.0%	13.5%	10.9%	10.5%	1.7%
3.除雪	26.8%	15.8%	22.7%	32.8%	36.6%	36.5%	30.0%	23.8%	18.8%	2.8%
4.日常的な相談相手	2.0%	2.2%	2.6%	3.3%	2.8%	1.4%	0.8%	2.0%	3.9%	0.0%
5.看病・世話	2.4%	0.7%	2.6%	2.9%	1.3%	1.4%	2.5%	4.0%	3.9%	0.0%
6.健康面	13.2%	2.9%	5.8%	7.0%	6.6%	8.3%	19.6%	22.5%	23.4%	1.7%
7.緊急時の相談先	2.6%	2.2%	2.6%	4.1%	2.2%	2.2%	1.9%	4.0%	2.7%	0.0%
8.災害への備え	11.8%	15.8%	16.2%	17.2%	14.1%	11.0%	11.7%	10.9%	9.4%	1.1%
9.防犯	12.1%	10.8%	8.4%	19.7%	18.1%	16.6%	11.9%	8.7%	7.0%	2.2%
10.運転の不安	3.0%	0.0%	3.9%	2.9%	0.9%	1.4%	4.2%	6.0%	3.1%	1.1%
11.移動手段	6.1%	6.5%	7.1%	4.5%	4.1%	5.5%	5.4%	8.9%	9.8%	1.7%
12.生活道路	6.1%	2.9%	8.4%	9.4%	8.4%	8.0%	6.9%	5.6%	1.2%	0.6%
13.買い物	16.8%	18.7%	20.8%	20.9%	20.3%	21.0%	16.0%	16.0%	13.3%	1.7%
14.金融機関	5.8%	2.2%	7.1%	6.6%	5.3%	6.6%	6.7%	6.5%	5.9%	0.6%
15.福祉サービス	1.8%	0.0%	1.3%	1.2%	1.6%	1.1%	2.1%	1.8%	5.9%	0.0%
16.医療	4.8%	1.4%	3.9%	4.5%	5.6%	6.4%	5.8%	4.7%	4.7%	2.2%
17.子育て環境	6.8%	2.9%	9.1%	19.3%	13.8%	6.9%	5.4%	2.2%	2.0%	0.6%
18.気軽に集まる場	5.5%	16.5%	9.7%	9.8%	5.3%	5.0%	3.1%	4.5%	4.3%	0.6%
19.通学不便	4.3%	10.1%	5.8%	7.8%	9.4%	4.1%	3.5%	1.1%	0.8%	0.0%
20.小中学校少人数	10.0%	10.8%	9.1%	23.4%	22.5%	8.6%	8.7%	3.8%	3.9%	0.6%
21.進学・進路	3.4%	20.1%	1.3%	8.2%	7.5%	1.7%	0.4%	1.1%	0.4%	0.0%
22.結婚	2.7%	2.2%	11.0%	6.1%	3.1%	1.7%	1.7%	2.0%	1.2%	0.0%
23.仕事・雇用	6.1%	6.5%	15.6%	11.9%	8.8%	8.3%	5.8%	2.2%	0.0%	0.0%
24.その他	2.7%	2.2%	5.8%	3.7%	5.3%	4.1%	1.5%	1.1%	1.6%	0.0%

第1位 第2位 第3位 第4位 第5位

- ・「除雪」「災害への備え」が上位になったのは近年の大雪や多発する災害が影響か？
- ・「買い物」は店舗の数か種類か？移動手段も関係する可能性があるため深掘りが必要。
- ・10代と親世代は教育環境に関する項目を選ぶ人が多く、20代は将来設計に関わる項目が選ばれている。若い世代は「気軽に集まる場」へのニーズもあり。
- ・年代が高まるにつれ健康に関する項目が上位。軽作業に不安を感じるのは体力や世帯人員が要因か？

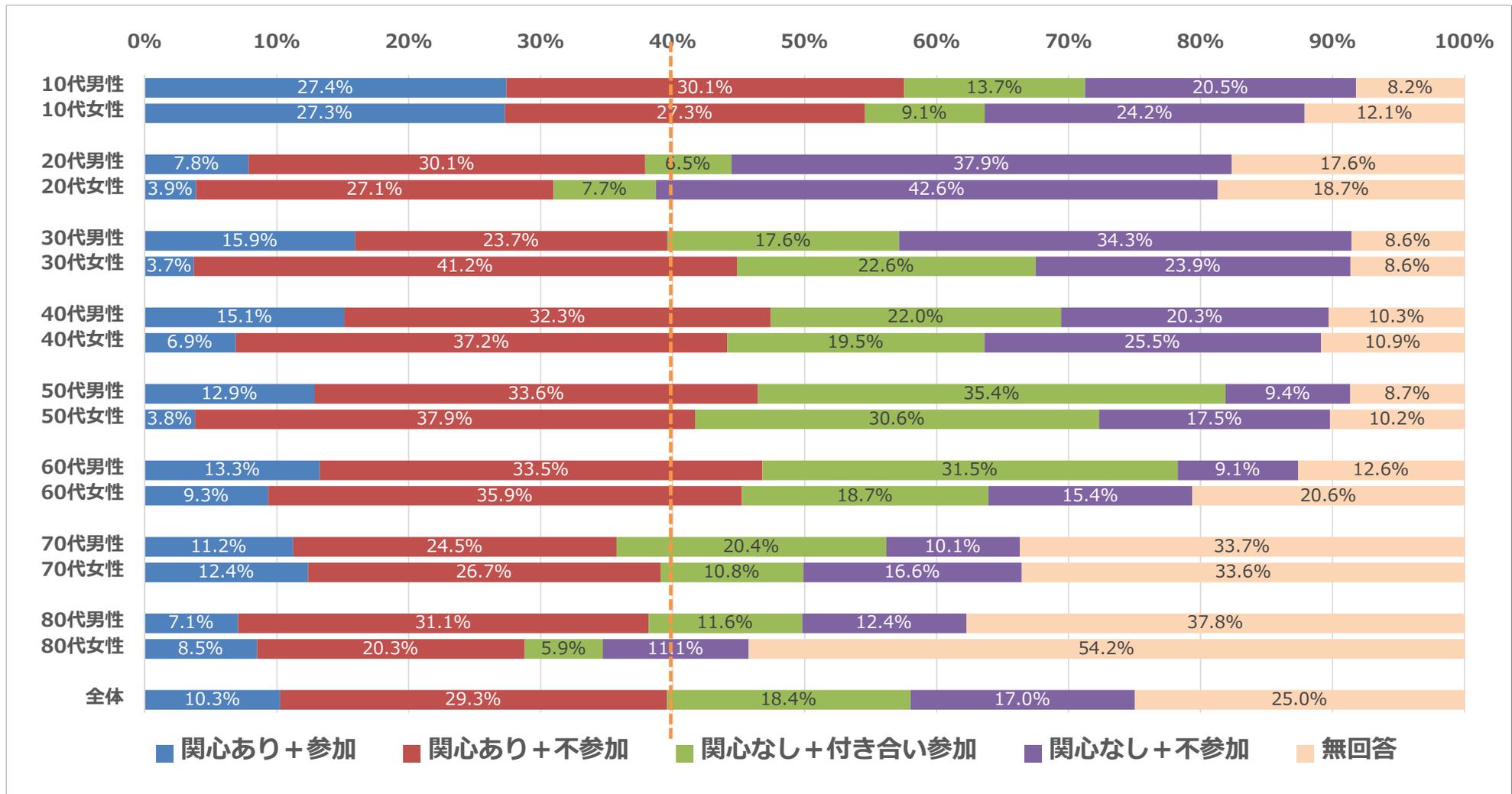
# Q7 地域活動への関心

## 地域活動への関心（参加状況順）



- ・関心のあるなしに関わらず、参加している人は全体の28.7%と約3割。しかし、「関心あり+不参加」は29.3%とほぼ同数。

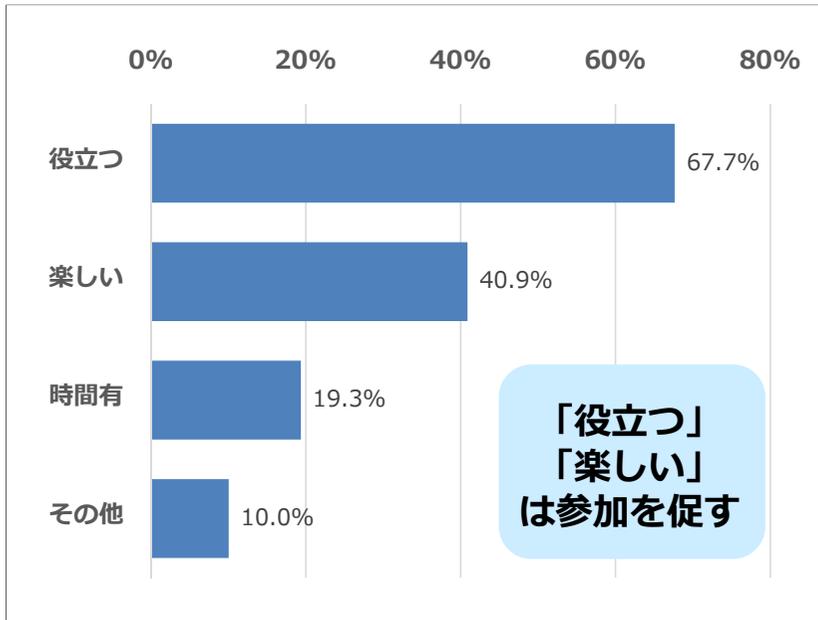
## 地域活動への関心（関心順）



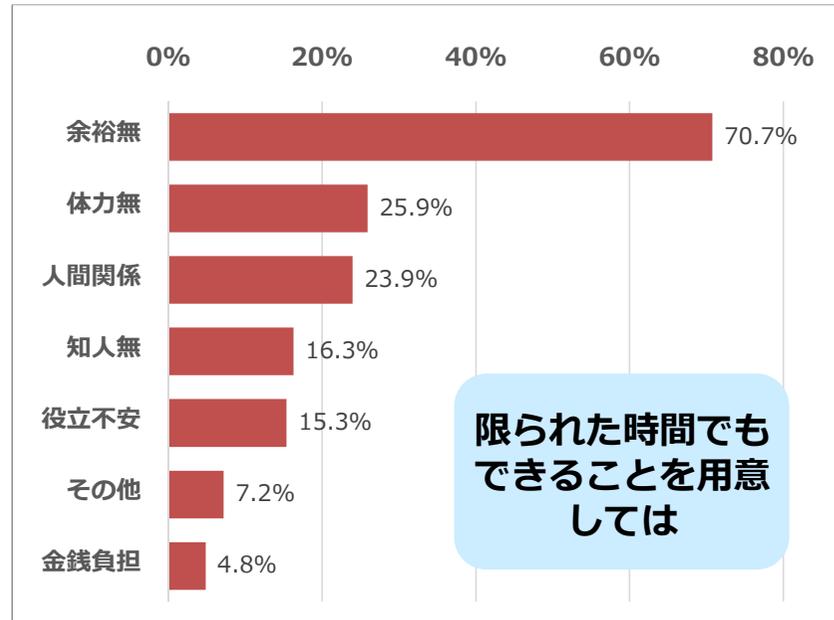
- ・関心がある人は約4割。そのうち参加していない人は約3割。
- ・若い世代も「関心はある」20代の参加は圧倒的に少ないが、10代は平均値より高い。
- ・全般的に男性の参加が多く女性の参加は少ないが、関心がある女性は多い。

- 「関心はあるが参加していない」  
→阻害していることを除く、取り組みの内容ややり方を考慮するなど参加を促せる？
- 子育てや教育関係の取り組みで女性を登用することで関わりが増えるのでは。

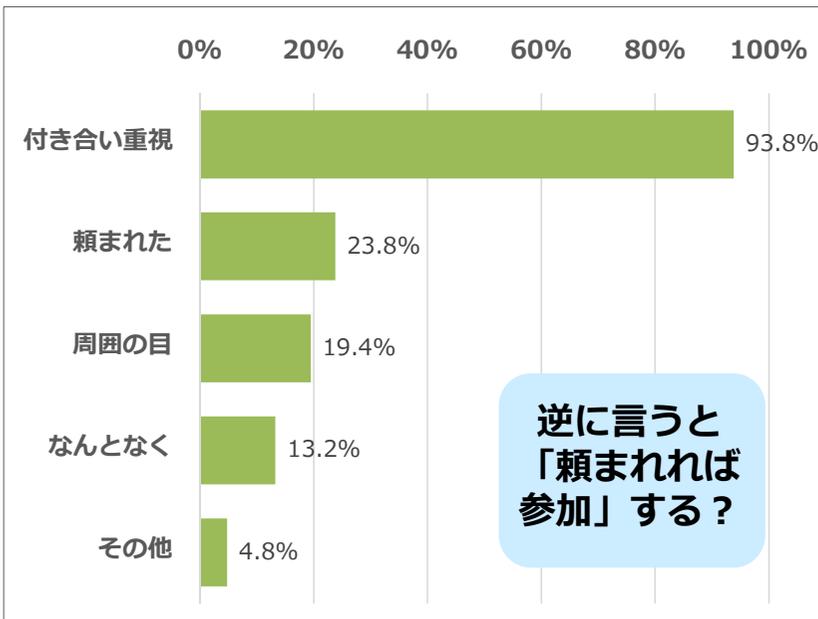
関心あり+参加の理由 (回答数269)



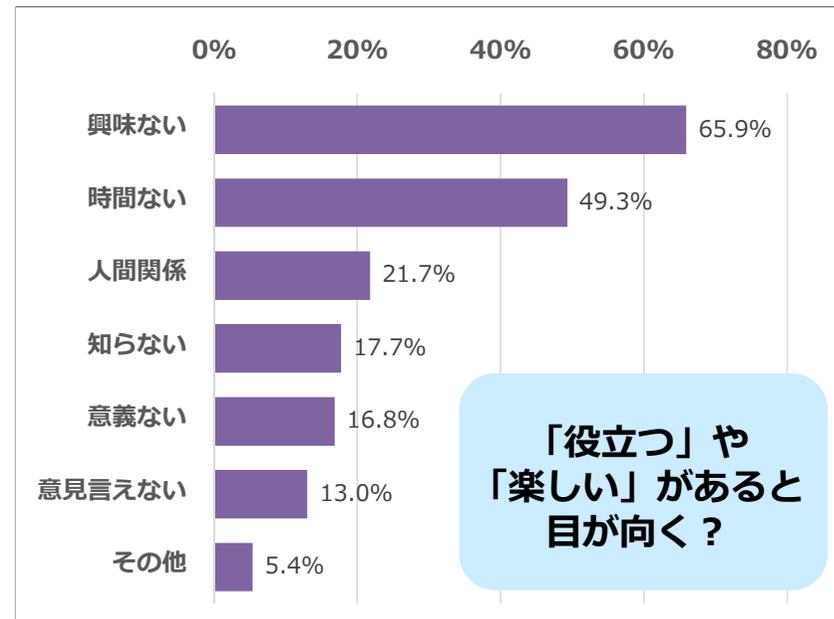
関心あり+不参加の理由 (回答数769)



関心なし+付き合い参加の理由 (回答数484)

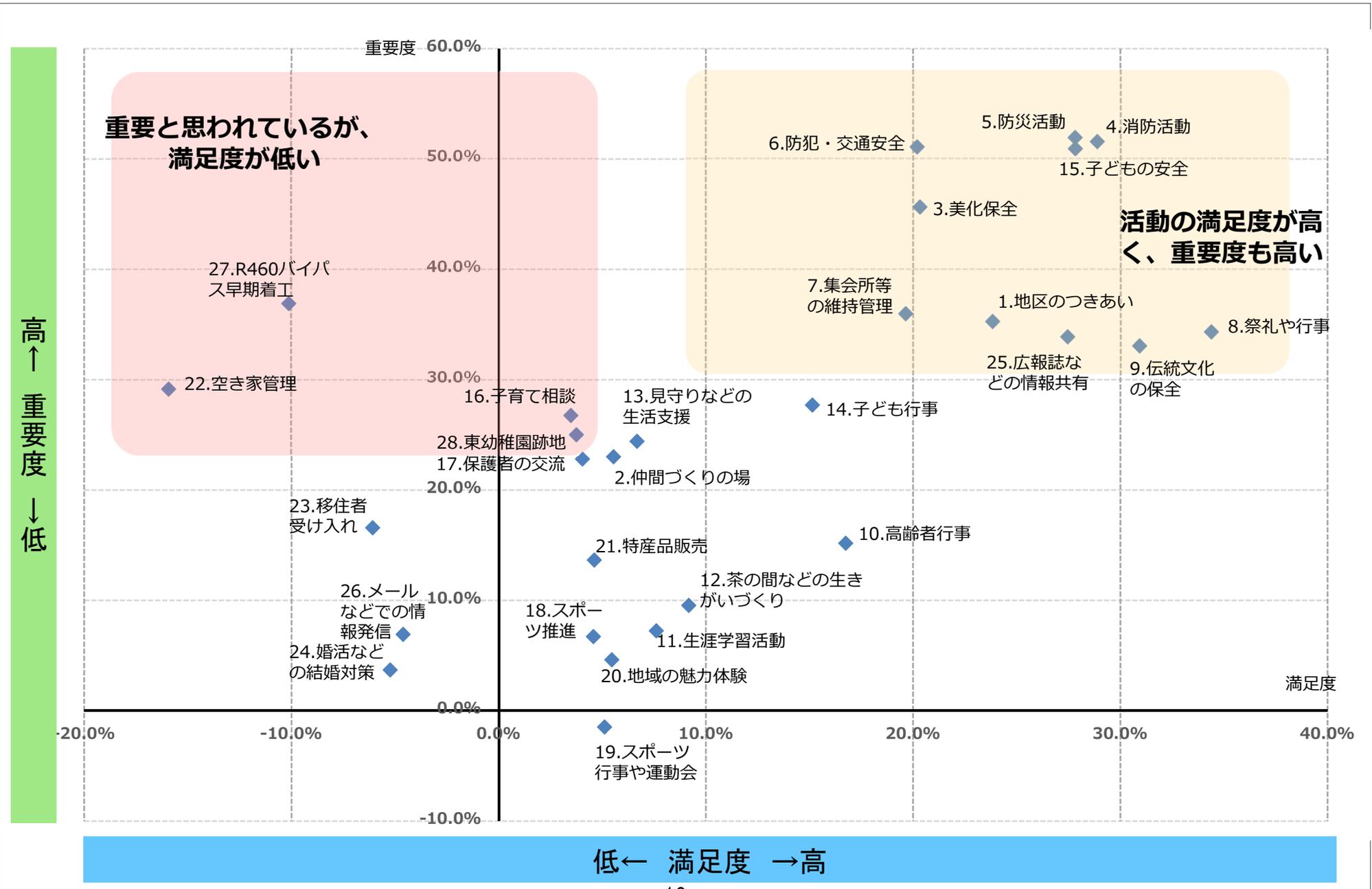


関心なし+不参加の理由 (回答数446)



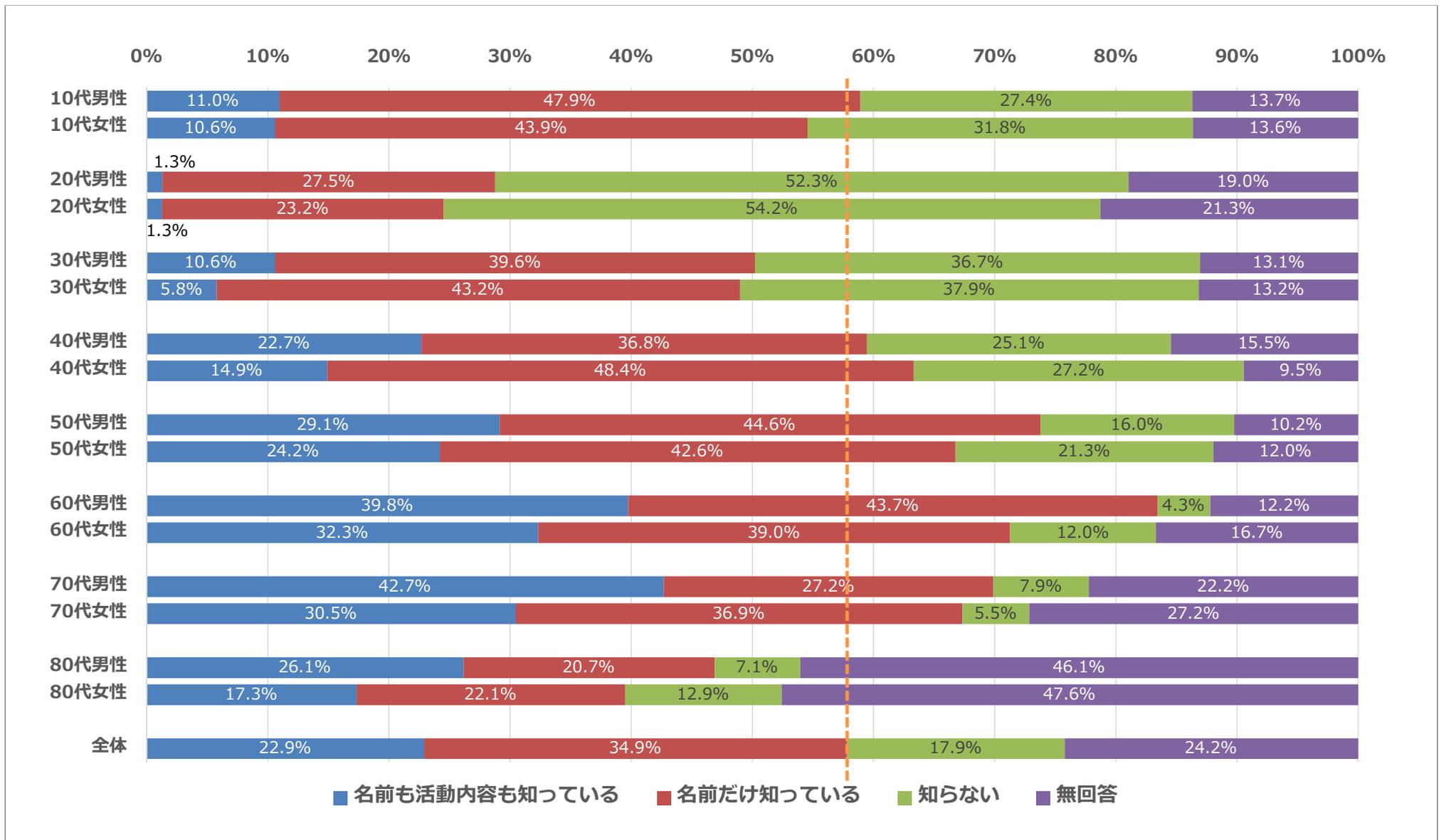
# Q8 活動の満足度・重要度

満足度×重要度（全体）



- ・全体的に「無回答」が約3割。「どちらとも言えない」がすべての項目でかなり多く、地域の取り組みが知られていないので判断がつかない（=答えられない）のではないか。
- ・環境美化・保全、防犯・防災・消防、子どもの安全、地区のつきあい、広報などの情報発信は満足度も高いが、引き続き重要とされている。
- ・スポーツや地域を知る活動は満足度重要度とも低め。
- ・20代30代は「困りごと・不安」で結婚が上位となっているが、取り組みにおいては重要と感じていない。
- ・空き家管理、バイパス着工、幼稚園跡地への取り組みは今後の重要度が高い。

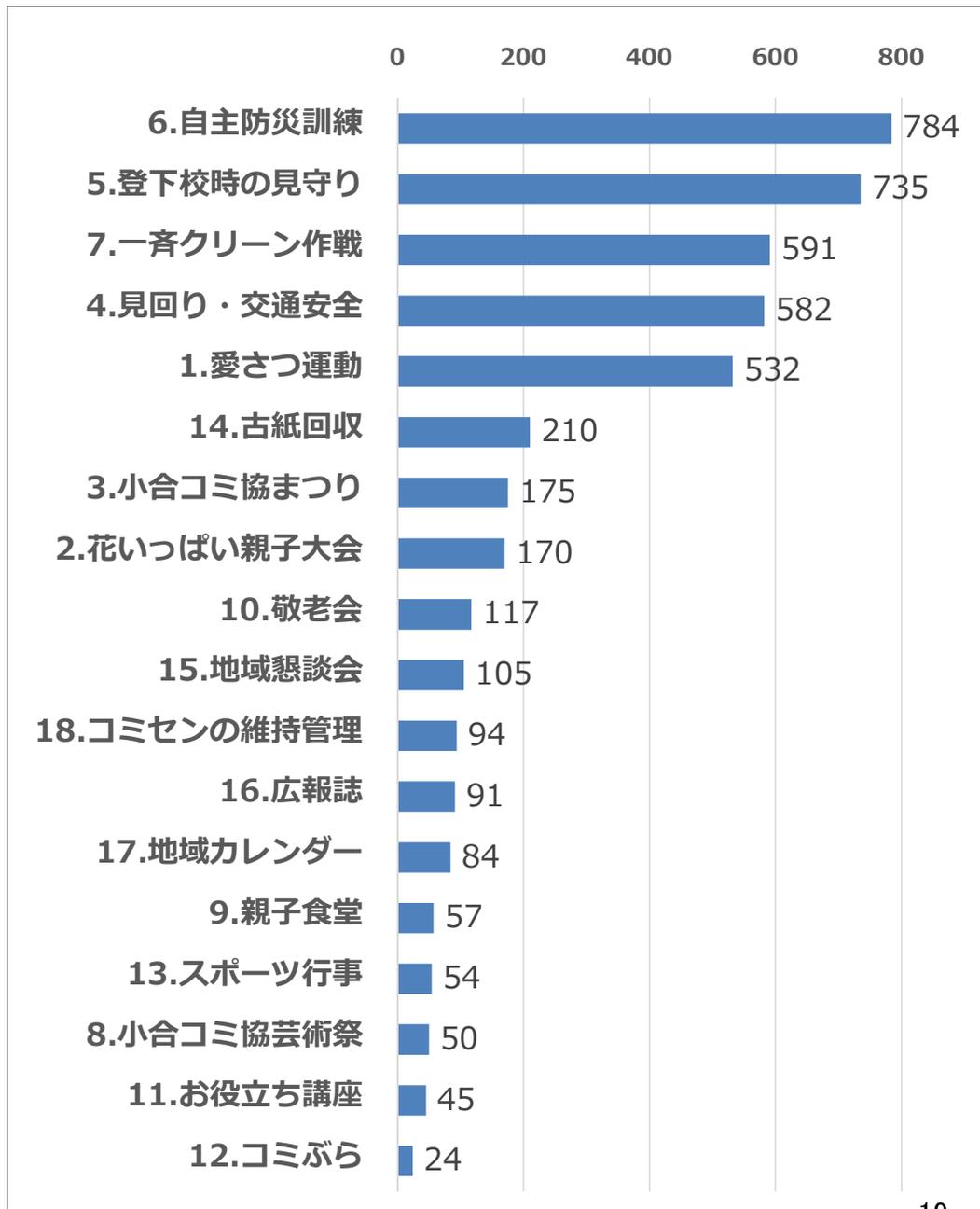
# Q9 コミ協の認知度



- ・半数以上がコミ協の存在は知っているが、20代は極端に認知度が低い。
- ・若い世代は「名前は知っているが何をしているかわからない」
- ・10代に知られているのは、子ども向け行事や学校とのつながりからか？

## Q10 コミ協活動の認知度

### 重要と思う活動（3つ選択）



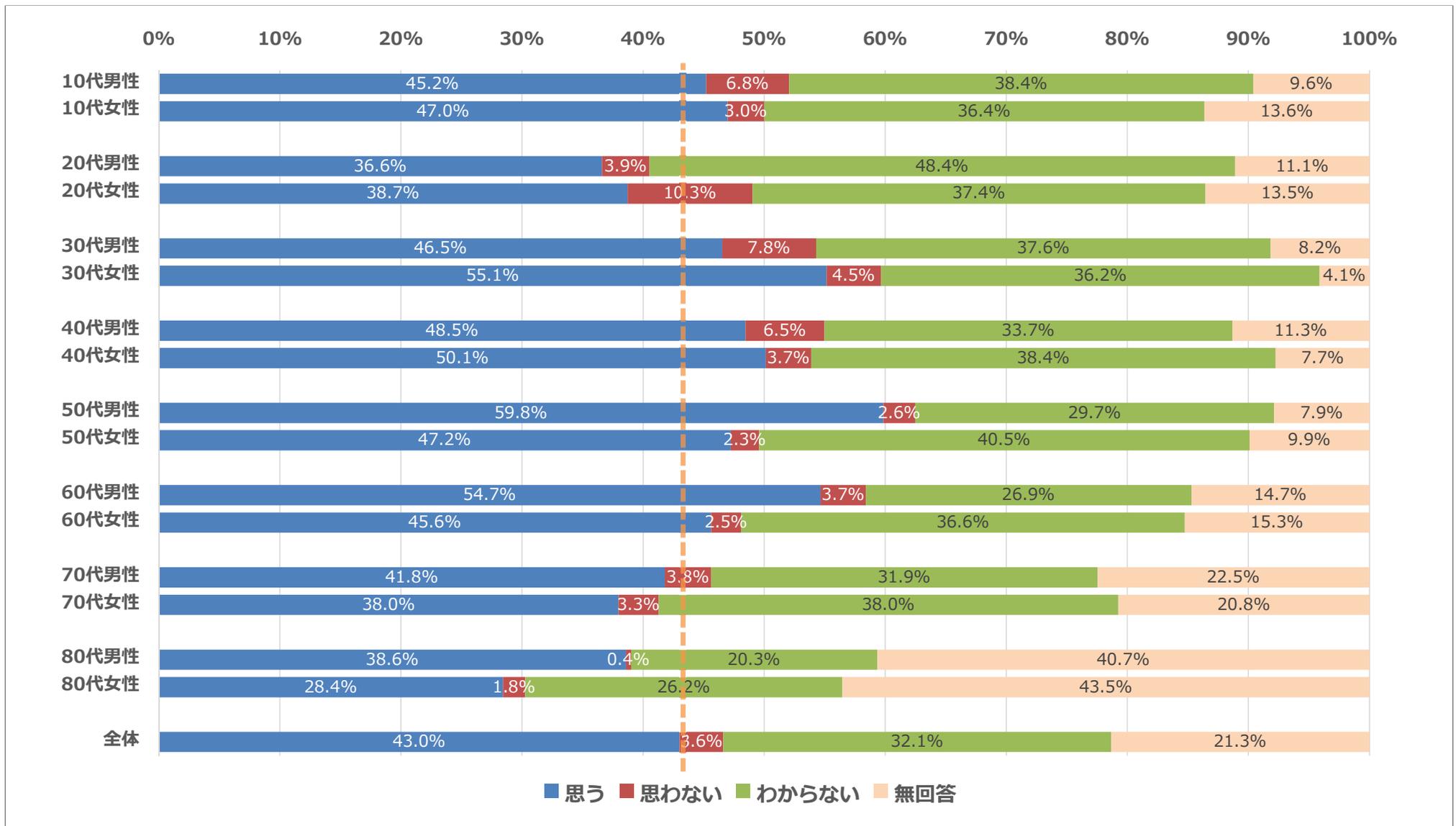
- ・ 自主防災訓練、登下校の見守り、クリーン作戦、見回り、愛さつ運動の順。重要度や認知度と相関する。世代別でも大きな差はない。

- ・ 実施していることが目に見えてわかりやすい活動が上位。知っているか知らないかで結果に影響が出ている可能性がある。

- ・ 新たに始めた活動などはまだ認知度が低いと考えられる。

結果が低くても、今後の地域づくりの方向性によっては大切となる活動もある。（例：地域を知る、住民どうしの関係づくりなど）

# Q11 若者や女性の声をもっと反映されるべきか

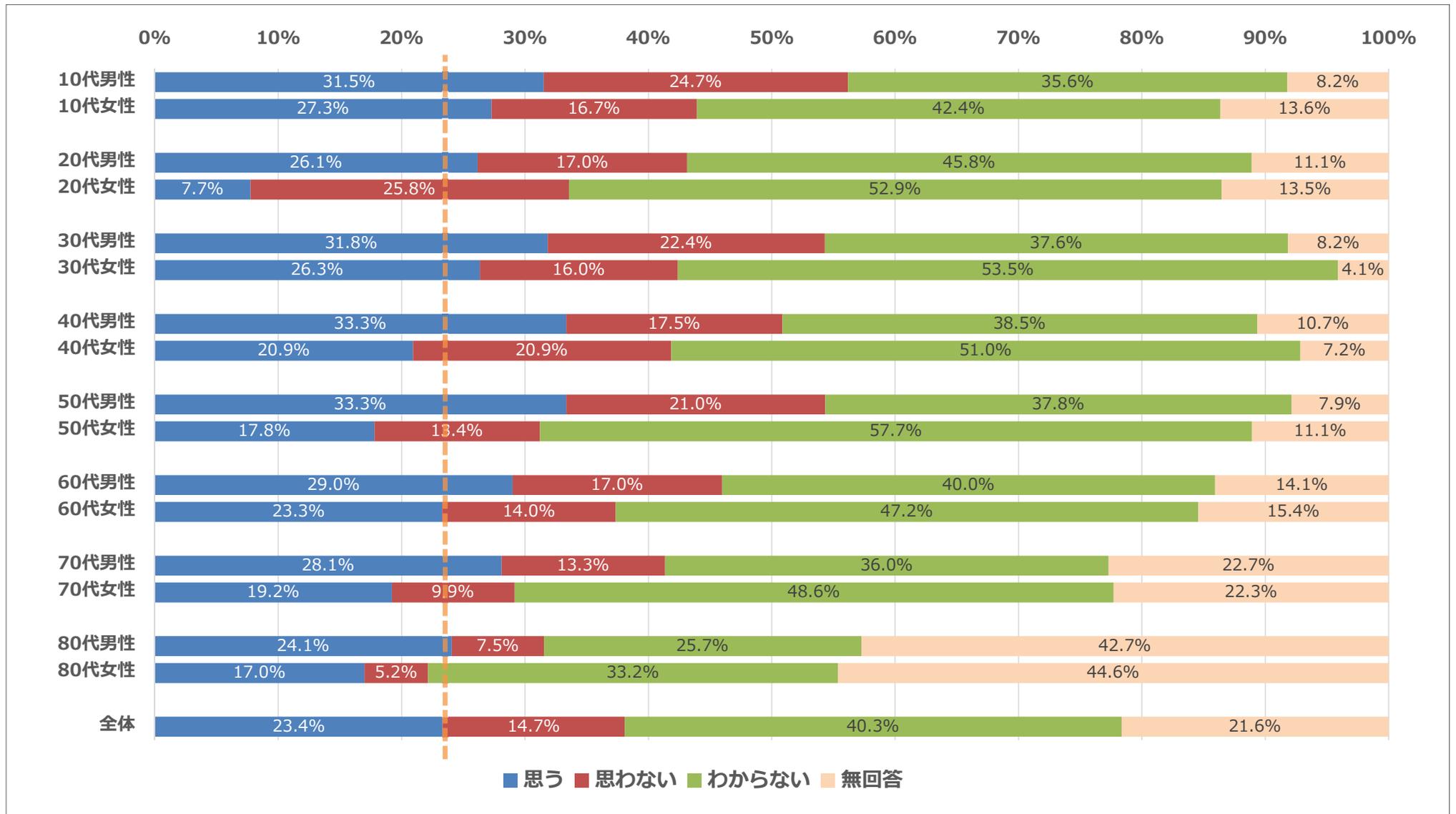


- ・「思わない」は少ないが20代女性のみ高比率。
- ・「思う」は43%だが「わからない」も各世代で3分の1前後。
- ・「思う」は若い世代では女性のほうが高いが、世代が上がるにつれ女性は男性より低くなる。



現在「反映されている」と感じているかどうか、個々の認識や関わりによると推測される。

# Q12 他地区との交流を図っていききたいか



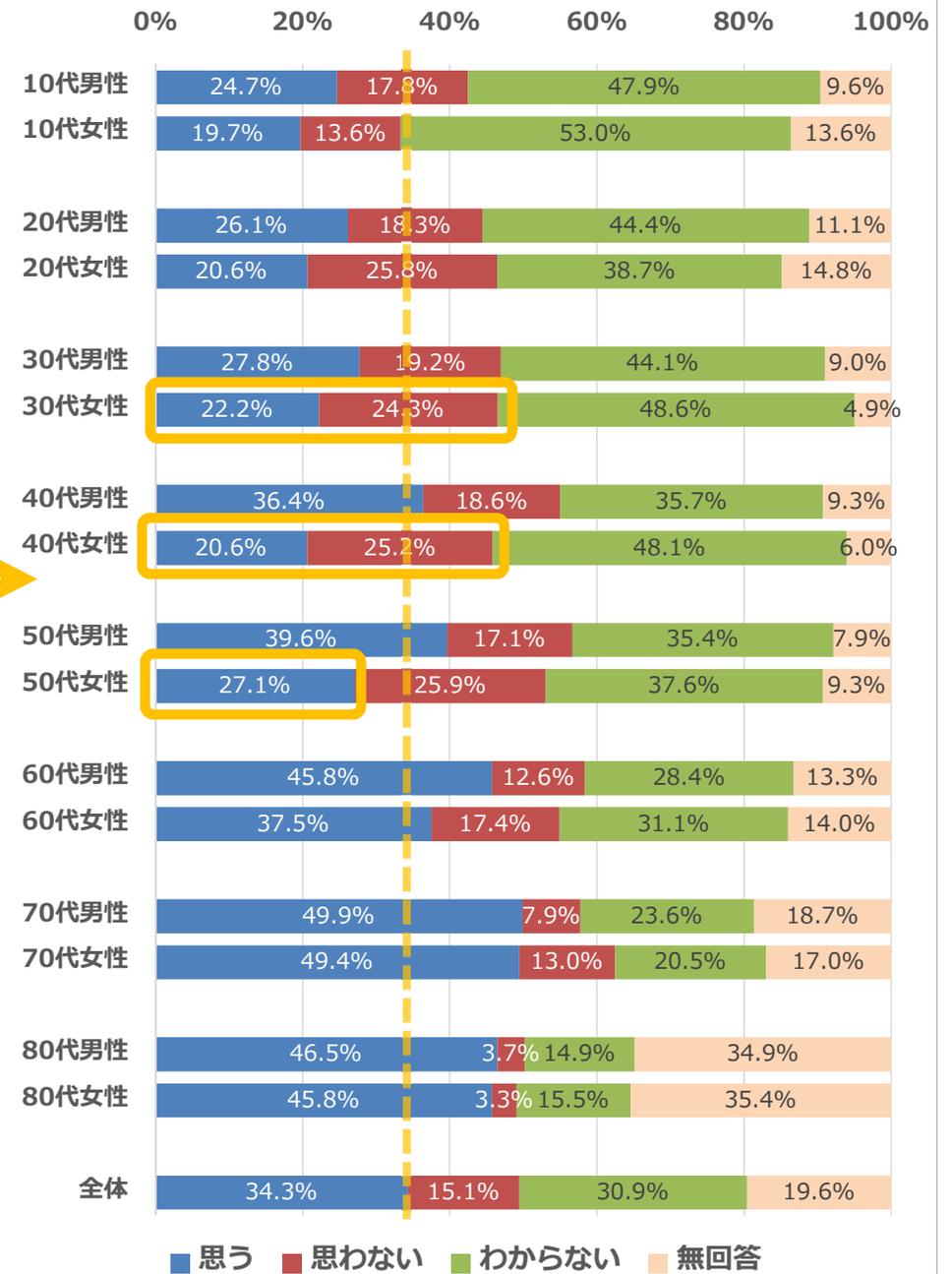
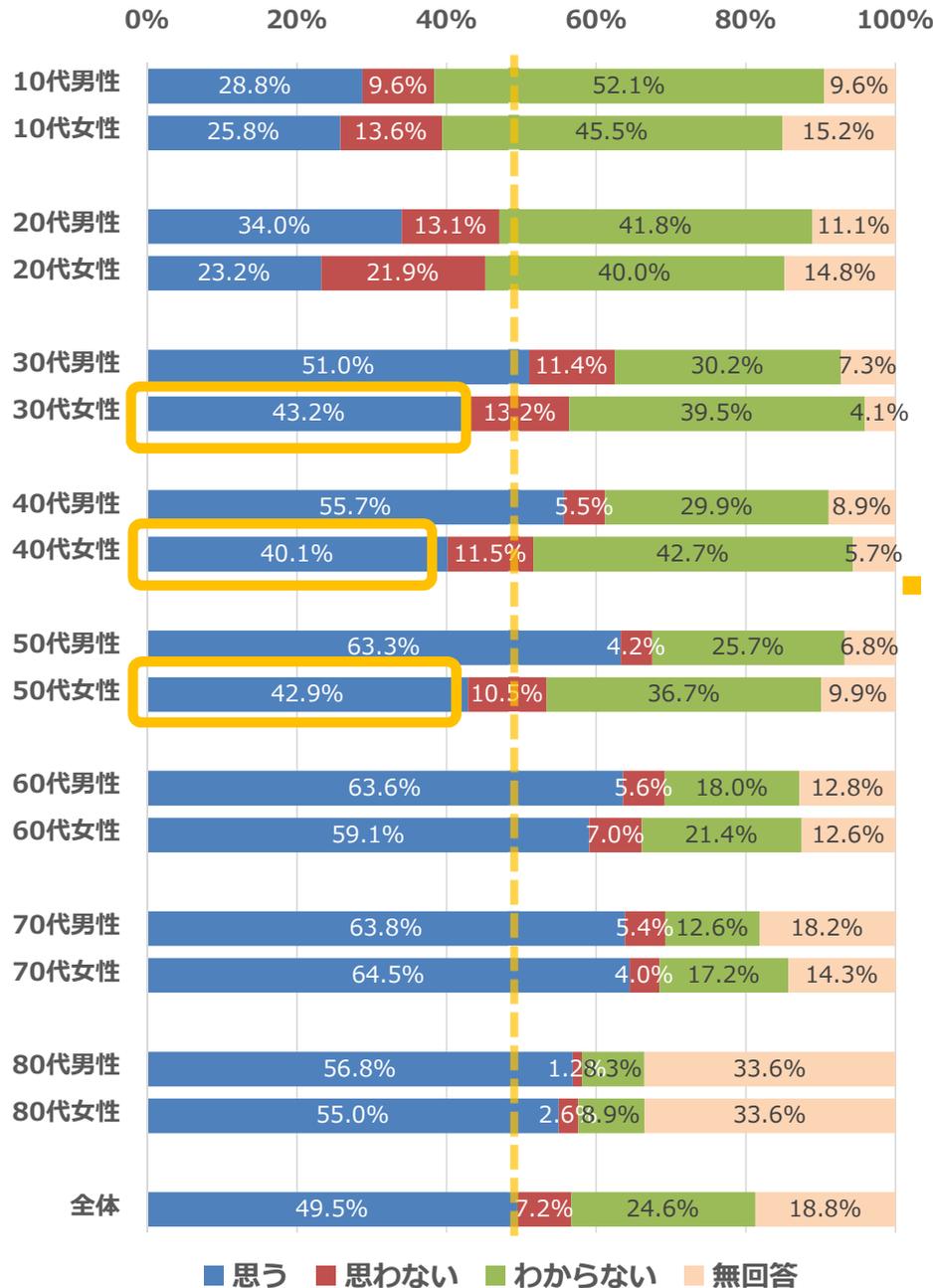
- ・「わからない」が約4割。世代や性別によっては5割を超える。
- ・特に女性は「思わない」「わからない」が多数。



他地区との交流に対するイメージがわからない？面倒と思うか？

## Q13 今後も小合地区に住み続けたいか

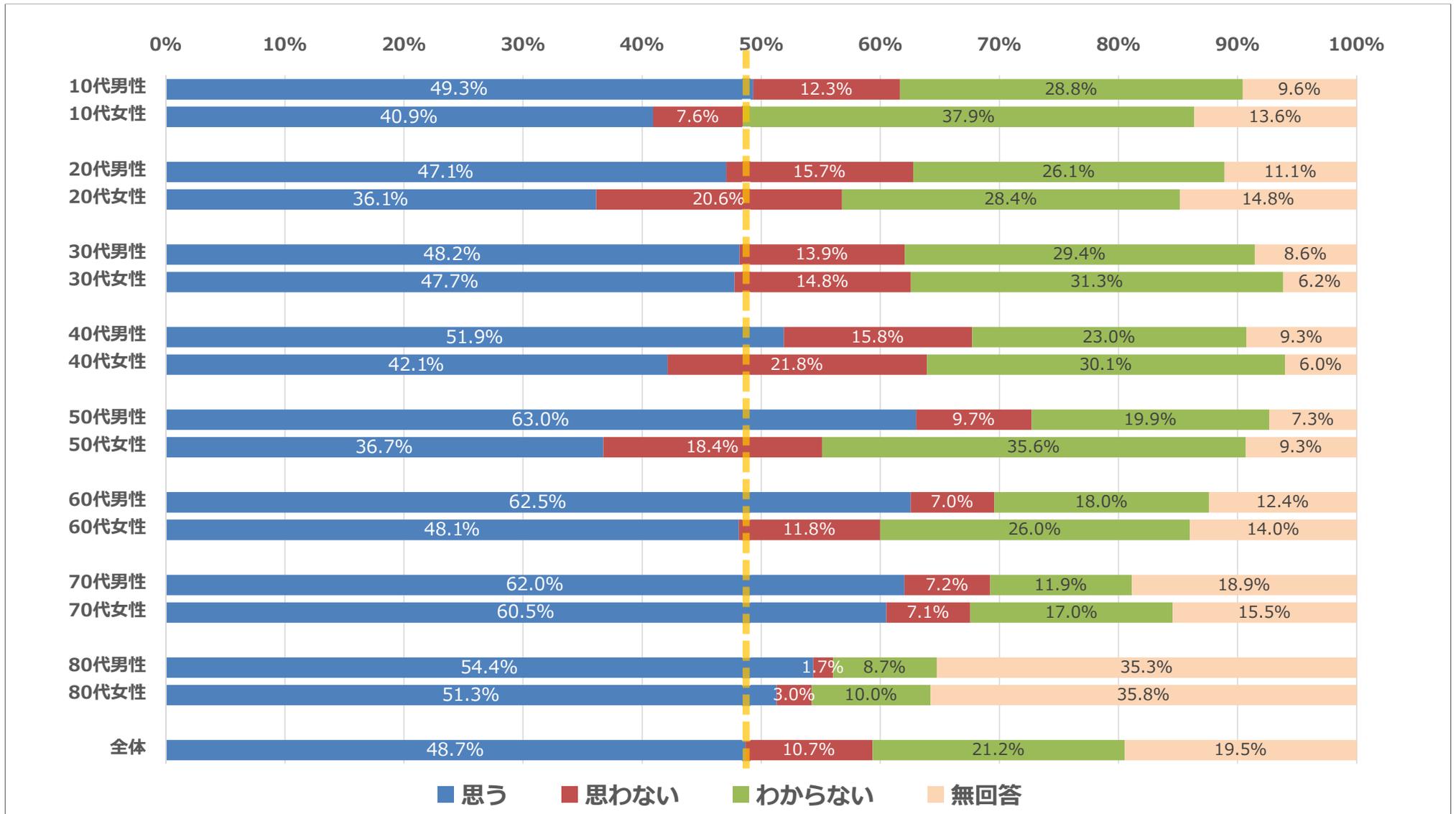
## Q14 子どもに小合地区に住んでほしいか



## Q13 今後も小合地区に住み続けたいか・Q14 子どもに小合地区に住んでほしいか

- ・「住み続けたい」は49%とほぼ半分だが、子どもに住んでほしいかは3分の1（34%）に減る。
- ・特に若い世代は「住み続けたい」が少なく「わからない」も多い。高齢者が多いため全体の数値は高くなるが、10代・20代は全体の平均値よりかなり下がる。
  - ・10代は地域に愛着があるものの「住み続けたいか」は低くなる。これからの進路や就職による。
- ・また、女性は男性に比べて低く、20代女性は顕著。
- ・子どもに住んでほしいかは、20代・30代・40代の子育て世代の女性で「思う」より「思わない」が上回っている。ただし、「わからない」がほぼ半分。子どもの選択を尊重している？
- ・「わからない」は多いが、これからの地域づくりの結果によって「住む」に変わる可能性あり。

# Q15 小合地区に愛着があるか

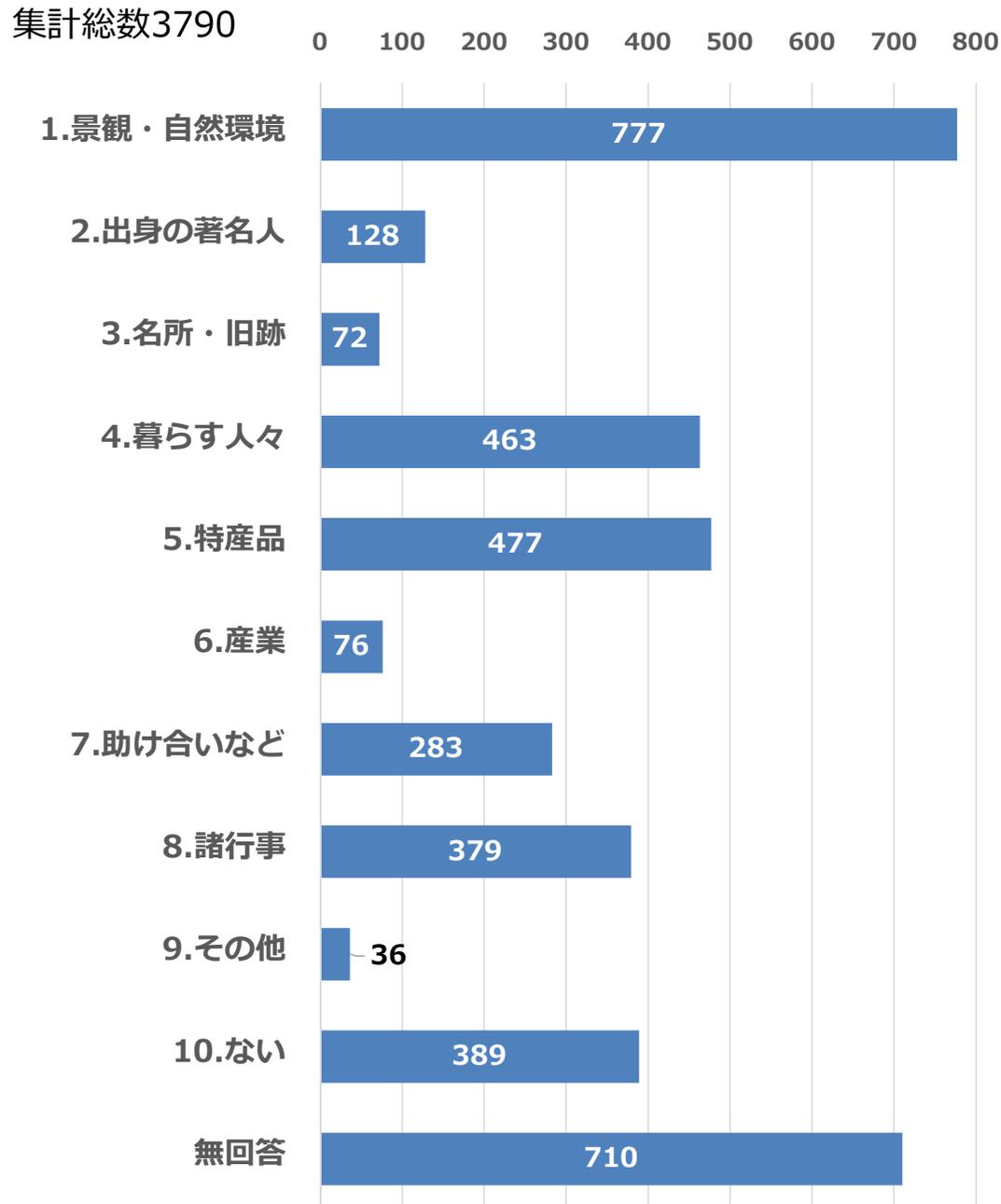


- ほぼ半数が「愛着がある」。しかし、20代40代50代の女性は低い。出身地が別である可能性大。
- 30代は男女とも全体平均と同じ。
- 40代以下の若い世代は「わからない」が3割前後<sup>24</sup>



- 40代50代の親世代の考えが20代に影響していないか？60代-30代も関連ありか？
- 今後、若い世代の愛着をどう育てていくか。

## Q16 小合地区で誇りに思うもの（複数回答）

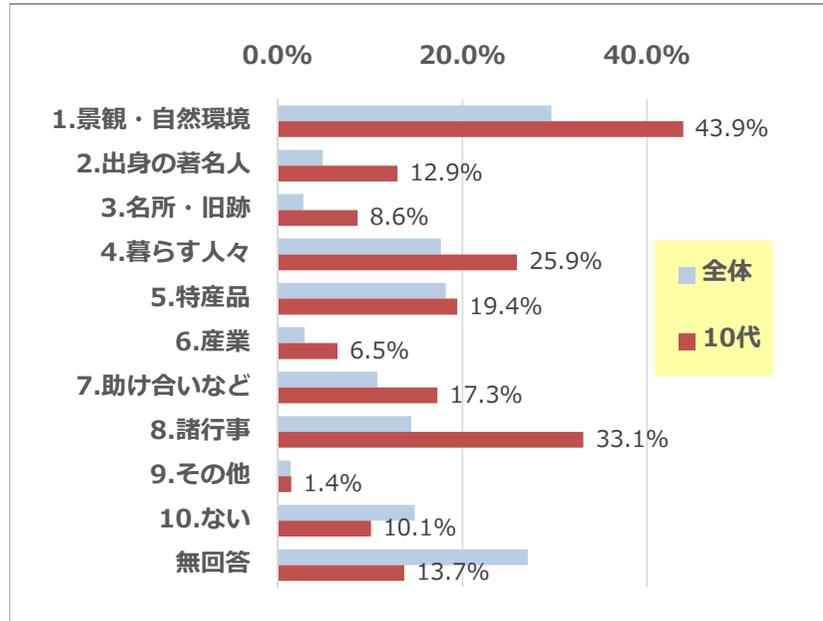


- ・ 無回答の数も多いが、トップは「景観・自然環境」「特産品」「暮らす人々」と続き、「誇りに思うものはない」がその後続く。
- ・ 「景観・自然環境」は各世代でトップ。以降は世代ごとで異なる。
- ・ 10代の回答は全般的に平均値より高い。「特にない」も平均より低い。
- ・ 「諸行事」は10代・30代・40代・50代で高め。子ども関連のものか？

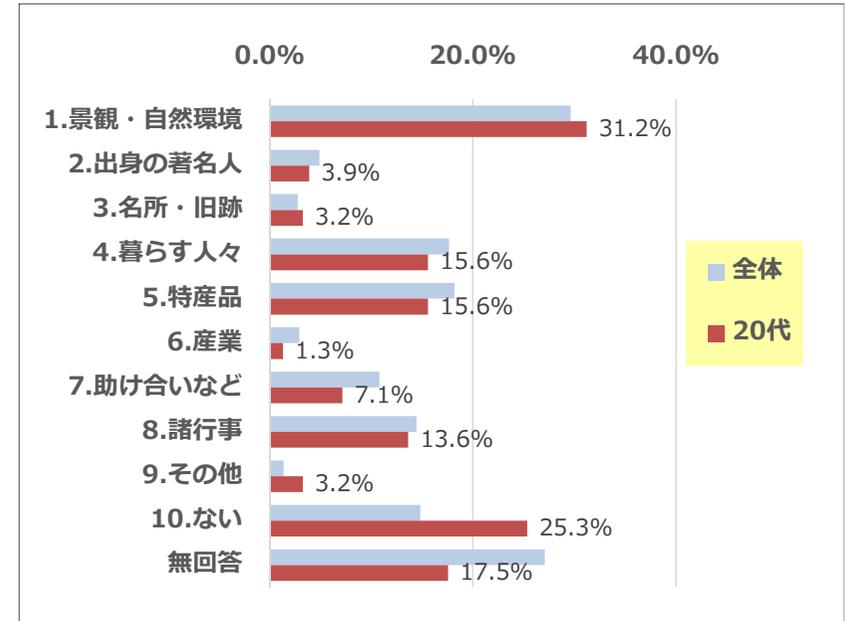
# 小合地区で誇りに思うもの（複数回答）

## 世代別

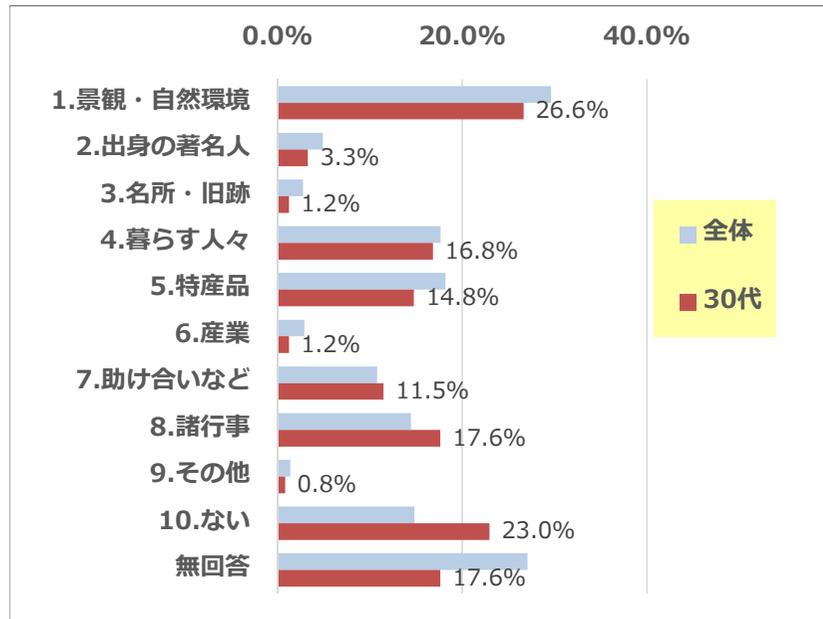
### 10代



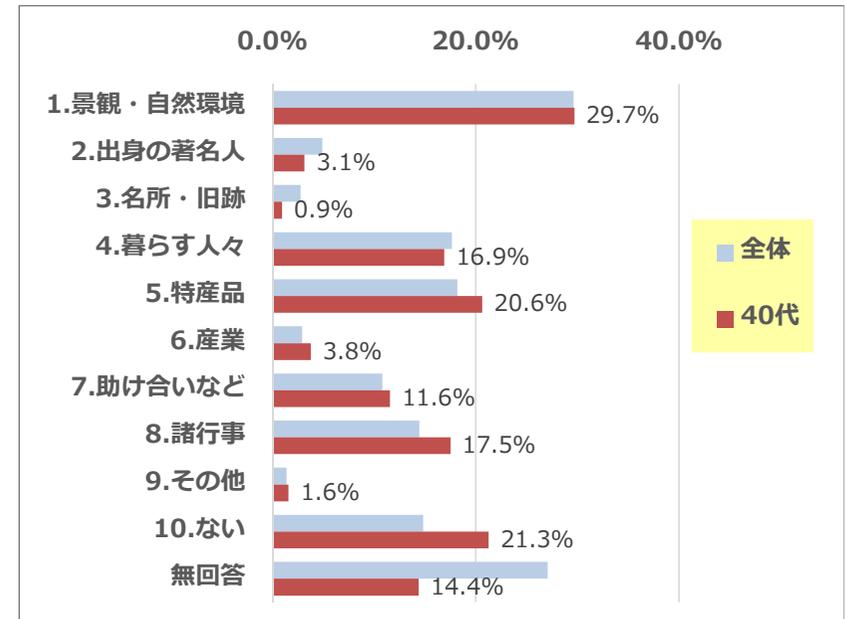
### 20代



### 30代



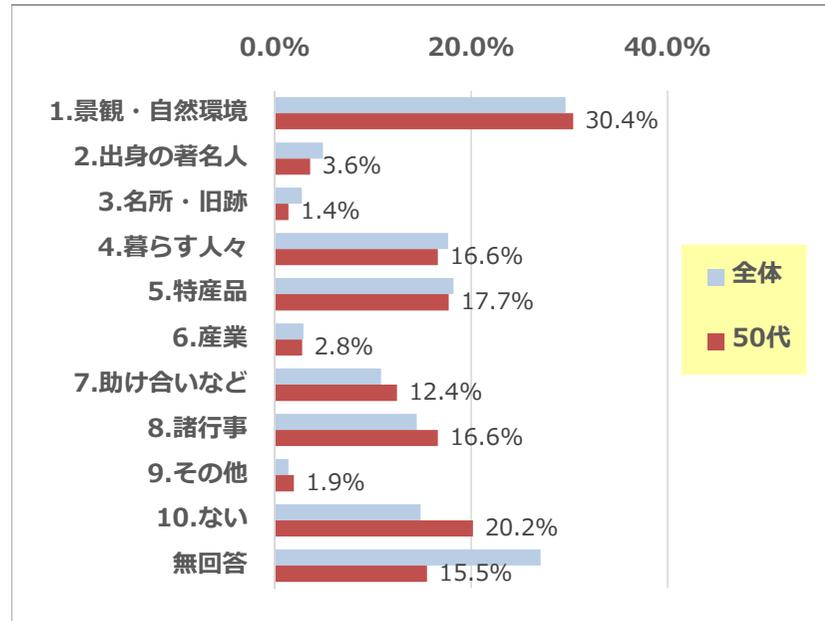
### 40代



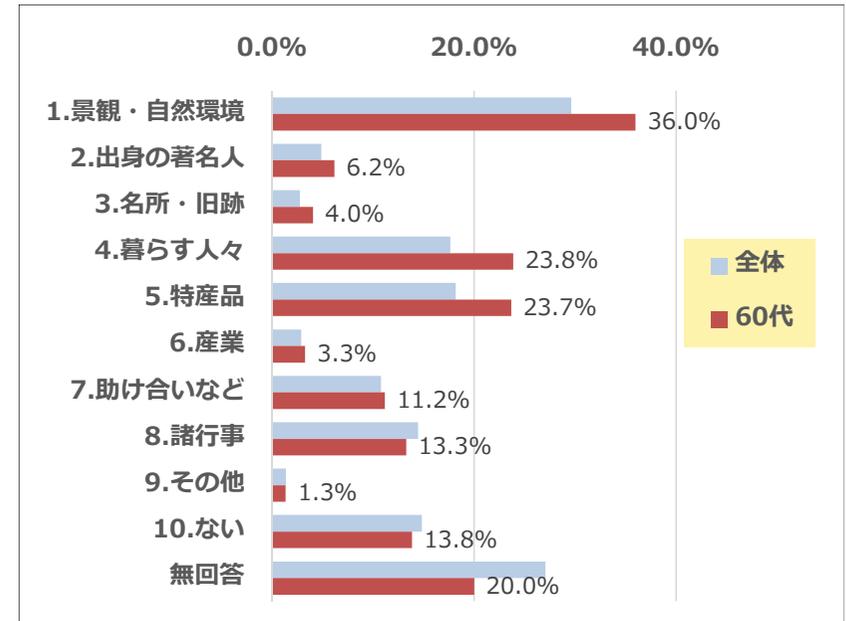
# 小合地区で誇りに思うもの（複数回答）

## 世代別

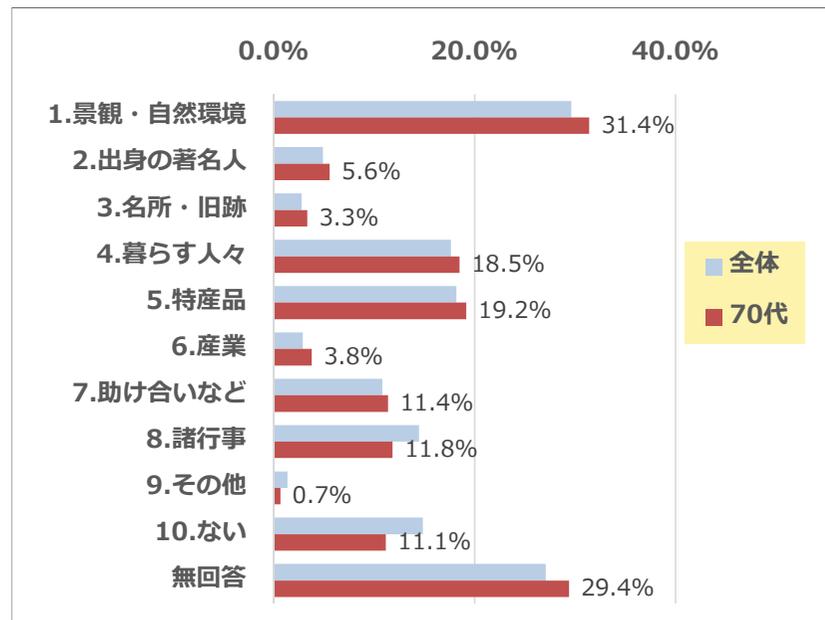
### 50代



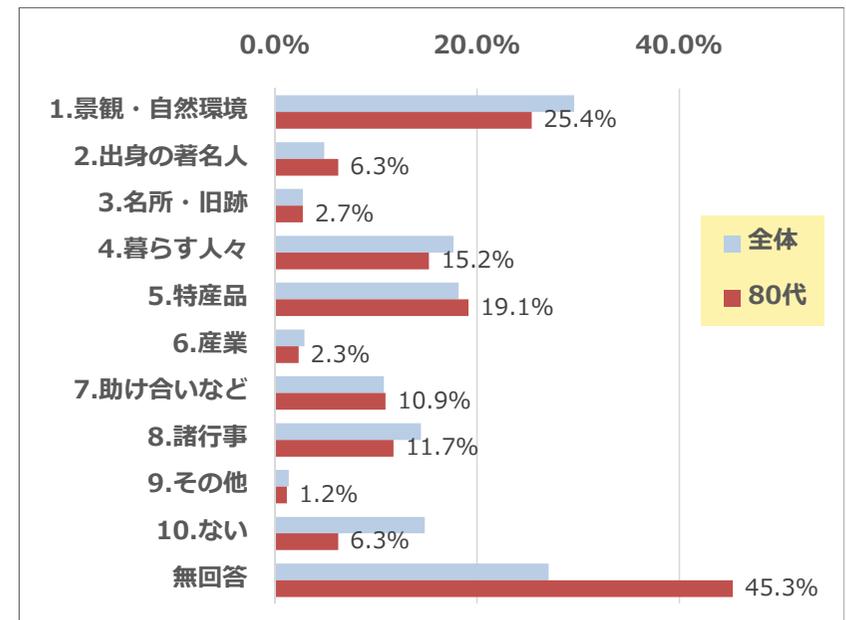
### 60代



### 70代



### 80代



## 全体として

- コミ協や活動の認知度に対する回答などから、地域や支える活動のことを「知らない」人が多いと思われる。
- 地域を支える活動自体を知っていても、「誰が（どこが）」やっているか知らない人が多い。

**➡ 地域の良さや暮らしを支える活動の重要性をもっと伝えよう。**

- 10代は地域への愛着があり誇りに思う資源への回答が多いが、20代になると結果が変わる。地域とのつながりが薄れている？

**➡ 現在の10代は、学校教育の中で地域について学ぶ機会があり、その成果が地域への関心や愛着の醸成につながっていると考えられる。若いうちに地域や住む人たちと触れ合う機会をつくることは大切。**

**➡ 「住み続けたい」と思うような環境を整えることで、将来への可能性を見いだすことができるのでは？**

- いま地域を支える活動に携わる60～70代はお元気で人数も多い。しかしこの先は…。

**➡ 10年後、20年後を見据え、起きうることへの備えをいまから！  
（移動手段、農地など）**